

(仮称) 熱海文学館
基本構想

令和2年3月

熱 海 市

目次

I 計画の端緒

- 1. 杉本氏の功績 1
- 2. 杉本氏と熱海市のゆかり 2
- 3. 杉本氏のご遺言とご要望 3

II 旧杉本邸及び彩苑の現状と課題

- 1. 旧杉本邸・彩苑の立地 7
- 2. 旧杉本邸・彩苑の立地的課題 7
- 3. 旧杉本邸と彩苑の活用方針 8
- 4. 資料の保存環境に関して 12

III 熱海市の文学・文化活動状況

- 1. 熱海市の上位計画における位置づけ 18
- 2. 熱海市の文学・文化関連施設と生涯学習活動状況 19

IV 熱海市の観光動向

- 1. 熱海市の観光客動向 23
- 2. 熱海市の観光施策 25
- 3. 「温泉文化」観光実現のために 26

V 設立準備委員からの提言

1. 熱海の文化力を発信する総合テーマの設定	27
2. 熱海市立図書館との関わり	28
3. その他の意見	28

VI (仮称)熱海文学館の基本的な考え方

1. 基本的な考え方	29
2. 基本方針	31
3. ターゲット層と施設機能	31
4. 展示テーマ案	33
5. 運営方法	33

VII 基本計画に向けて

1. 基本計画の検討課題	34
2. 事業スケジュール	36

資料編

I 計画の端緒

「(仮称)熱海文学館基本構想」は、熱海市に在住された小説家杉本苑子氏と熱海市が締結した遺贈契約に基づき策定するものです。次年度の基本計画策定のため、現状把握と課題整理を行った上で本事業の方向性を示します。

ここでは、杉本氏の功績と、構想策定の前提となる遺贈契約の内容を記します。

1. 杉本氏の功績

杉本氏は、大正 14(1925)年東京都牛込区(現・新宿区)生まれの小説家です。

昭和 27(1952)年『燐の譜』が大衆文芸賞を受賞し、その選考委員であった吉川英治に師事します。昭和 38(1963)年『孤愁の岸』で第 48 回直木賞、『滝沢馬琴』で師の名を冠した吉川英治文学賞、『穢土荘厳』で女流文学賞などの受賞歴があります。『マダム貞奴』と『冥府回廊』はNHK大河ドラマ「春の波濤」の原作となるなど、一貫して歴史を題材とする小説を発表し続けました。

【杉本苑子氏略歴】



大正 14(1925)年 6 月 26 日 東京都牛込区(現・新宿区)に薬剤師杉本福次郎と成子の長女として生誕

昭和 24(1949)年 文化学院卒業

昭和 26(1951)年 『申楽新記』サンデー毎日懸賞小説で佳作

昭和 27(1952)年 『燐の譜』大衆文芸賞受賞
この時の審査委員吉川英治に師事する。10 年間の作品発表禁止を命じられる。

昭和 37(1962)年 『船と将軍』刊行

昭和 38(1963)年 『孤愁の岸』第 48 回直木賞受賞

昭和 53(1978)年 『滝沢馬琴』第 12 回吉川英治文学賞受賞

昭和 61(1986)年 『穢土荘厳』第 25 回女流文学賞受賞

昭和 62(1987)年 紫綬褒章

平成 7(1995)年 文化功労者選出
熱海市と遺贈契約締結

平成 9(1997)年 熱海市名誉市民となる

平成 14(2002)年 文化勲章受章

平成 29(2017)年 5 月 31 日 自宅にて逝去(享年 91 歳)

2. 杉本氏と熱海市のゆかり

杉本氏は、昭和 52(1977)年熱海市に別荘を構え、昭和 55(1980)年にはその別荘に移住した後、亡くなるまで熱海で執筆活動を続けました。

また、師匠の吉川英治の別荘が熱海市西山にあり、別荘を建てる前から度々熱海を訪れていました。そのころの思い出を次のように語っています。

吉川英治先生は大変厳しい人で、作品を見ていただくたびに叱られた。叱られても叱られても、子どものころからの夢であった小説家になれ、文章を書けるだけで嬉しくて、ただひたすらに書き続けてきた。

しかし、奥様は優しい方で、遅くなると「苑子さん、ご飯を食べていらっしゃい。」と気を使っていた。また、先生のお宅の向かいには赤坂辺りの日本料理屋の出店があって、料理を取っていただいたこともあった。奥様の気遣いやおいしい料理につられて熱海に通っていたといえる。(※1)

平成 7(1995)年、文学館の設立を願い、杉本氏自身の没後に著作権を含めた全ての財産を遺贈する契約を熱海市と結びました。平成 9(1997)年 4 月 10 日には、熱海市制施行 60 周年に際し名誉市民となっています。平成 7(1995)年、(仮称)熱海文学館の設置場所として予定されている熱海字竹ノ沢の居宅に引っ越し、最初の居宅は熱海市に寄贈し、彩苑として一般公開中です。生前は、ご自身が講師となって彩苑での講座を実施するなど、文学のすそ野を広げる活動の場として活用されました。熱海市への思いを次のように語っています。

熱海へは、単なる別荘のつもりで家を持ったが、空気や景色、人など、思っていたより居心地がよくて、結局住み着いてしまい、骨を埋めることになった。子どものころから、何度となく家移ってきたが、熱海へは、初めて自分の意志で転居してきた。

吉川英治先生の西山の住まいへは度々訪れていたが、今は建物もなくなってしまって大変残念である。だからこそ、せめて熱海ゆかりの文学者や文学作品の資料が散逸しないよう、自分の死後、自分の家屋敷を使って熱海文学館を設立していただきたい。(※1)

平成 29(2017)年 5 月 31 日ご自宅にてご逝去され、平成 31(2019)年、遺贈契約に基づき本事業の検討が始まりました。

※1 「平成 19 年 4 月 10 日市制施行 70 周年記念式典への送迎車中の会話から」抜粋

3. 杉本氏のご遺言とご要望

杉本氏の遺言書には、所有した土地、建物だけでなく著作権を含めたすべての資産を熱海市に遺贈することが明記されています。また、熱海市と締結した要望書、契約書では、杉本氏を含む熱海市ゆかりの文学者の資料を保存・収集、展示し、文学館として十分な機能を果たす「熱海文学館(仮称)」の設置を希望されています。

本事業は、契約書に記載された「熱海市にゆかりのある文学者の記念館とすることは熱海市にとってきわめて意義があることと考えており」という杉本氏のメッセージと、杉本氏が生涯をかけた作家活動を尊重し、生きた証の全てと言っても過言でない著作権を託した思いをしっかりと受け止めることから始まると考えます。

したがって、杉本氏の遺志を尊重し、文学によって熱海市の発展に寄与する施設を創造することを、本事業の第一義とします。熱海市を取り巻く状況と、文化財および生涯学習施策を踏まえ、本事業が目指す方向性を示すとともに、基本計画にあたる課題精査を行います。

以下に、遺贈契約といわれる各文書の抜粋を記載します。

(1) 遺言書(抜粋)

私、杉本苑子は次のとおり要望する。

第1条 略

第2条 私は、熱海市との契約にしたがい、私の所有する土地、建物、著作権、現金、預貯金その他すべての資産を熱海市に遺贈する。

ただし、指名する遺言執行者が、資産価値のないもの、熱海文学館(仮称)に収蔵するのに適当でないものと判断した物品は、資産に含まれないものとし、適当に処分するものとする。

第3条 略

第4条 略

第5条 遺言執行者として、次のものを指名する。

東京都千代田区丸の内

中村合同特許法律事務所

弁護士 中村 稔

弁護士 辻居 幸一

熱海市教育委員会 平成7年2月23日 第54号 受付

(2) 要望書(抜粋)

土地、建物等の私の資産のすべてを私の死亡を条件として熱海市に贈与する旨の契約をするのについて、次のとおり要望します。

- 一 熱海文学館(仮称)の運営については、文学館として十分な機能を果たすためには、文学に造詣のふかい外部の専門家をまじえた運営委員会のような組織を設けて、そうした方々の意見をふまえて運営して頂きたい。
- 二 熱海文学館(仮称)の業務の遂行については、美術館における学芸員や図書館における司書と同様、文学館における資料の保存・展示等に関して特有の専門的知識と経験をもつ専任の職員が必要であろうと思われるので、そういう職員をおくことにして頂きたい。
- 三 熱海文学館(仮称)は、運営委員会の方々の意見をふまえ、空調等の設備を含め、文学館としての機能を果たすにふさわしい施設として頂きたい。
- 四 著作権に関しては、運営委員会の方々の意見をふまえ利用するようにし、著作者としての私の名誉や声望がそこなわれることのないよう、十分な注意を払って頂きたい。

平成7年6月4日

杉本苑子
熱海市長 川口市雄

(3) 契約書(抜粋)

杉本苑子(甲)と熱海市(乙)との間において、次のとおり契約する。

[前文]

- * 甲は、別紙目録(二)記載の土地、建物を甲の没後「熱海文学館(仮称)」とし、甲を含む熱海市にゆかりの文学者の遺品、蔵書、原稿、書簡などを保存・収集、展示する施設とし、熱海市にゆかりのある文学者の文学の研究、普及に役立たいと希望し、このため、甲の資産のすべてを熱海市に甲の死亡を条件として贈与したいと考えている。
- * 乙は甲の資産の贈与を受けたさい、別紙目録(二)記載の土地、建物を「熱海文学館(仮称)」として、熱海市にゆかりのある文学者の記念館とすることは熱海市にとってきわめて意義があることと考えており、甲の意思にそって、甲の資産を、甲の死亡を条件とし、かつ、この契約書の条項にしたがい、贈与を受けることを希望している。

第1条

- * 甲は、この契約の条項を乙が遵守することを条件として、甲の死亡の時点で所有する、甲のすべての資産を乙に贈与し、乙は同条件を遵守することを了承の上で、贈与を受ける。
- * 遺言執行者が、甲の身の回り品等、資産価値のないもの、または「熱海文学館(仮称)」に収蔵するのに適当でないものと判断した物品は、甲の資産には含まれないものとする。

第2条

- * 乙は、別紙目録(二)記載の土地、建物を「熱海文学館(仮称)」として利用し、維持し、運営するものとする。

第3条

- * 乙は甲から遺贈を受けた甲のその他の資産を、別紙目録(二)記載の土地、建物を「熱海文学館(仮称)」として改造し、維持し、運営するための費用に充てるものとし、不足する額は自ら負担することにより、「熱海文学館(仮称)」を、甲の意思にそって、意義ある施設として維持、運営するものとする。
- * 乙は、別紙目録(一)記載の土地、建物、別紙目録(三)記載の土地、甲が所有するその他の資産を売却することができる。ただし、甲の著作権および「熱海文

学館(仮称)」に収蔵する価値ある文学者の遺稿、遺品、書簡などを売却することはできない。

第4条

略

第5条

略

第6条

* 甲は本契約の趣旨にしたがう遺言書を作成するものとする。

平成7年6月4日

(甲)杉本苑子

(乙)熱海市長 川口市雄

立会人 弁護士 中村稔 (中村合同特許法律事務所)

目 録

(一) 土地および建物

熱海市熱海字銀山1788番地の61の土地・建物 (現「彩苑」)

(二) 土地および建物

熱海市熱海字竹ノ沢1766番地の47他の土地・建物 (現「杉本苑子邸」)

(三) 土地

北海道茅部郡砂原町字沼尻所在の土地

II 旧杉本邸及び彩苑の現状と課題

遺贈契約に基づき、熱海市は2棟の住宅を所有しています。

1棟は熱海移住時の居宅で、現在は一般公開されている彩苑です。もう1棟は彩苑から引越して亡くなるまで暮らした熱海字竹ノ沢の居宅(以降は旧杉本邸と表記)です。本事業では、旧杉本邸を(仮称)熱海文学館として活用することを想定しています。

ここでは、旧杉本邸を活用するため、2棟の住宅の立地、現状と収蔵資料の状況を把握し、一般公開に向けた課題を整理します。

1. 旧杉本邸・彩苑の立地

旧杉本邸は、市街地西部の西熱海町一丁目に位置し、敷地面積約450㎡、木造スレート葺2階建て、床面積約238㎡の建物で、玄関前の道路を隔て、約331㎡の駐車場予定用地があります。公共交通機関として、3ヶ所ある最寄りの路線バスのバス停から、いずれも徒歩15～20分程度必要です(次ページ参照)。電車では、JR伊東線が最寄りの路線となりますが、来宮駅から道のりで2.3km、自動車では約7分、熱海駅からでは、同じく3.3km、約15分の距離となっています。

彩苑は、西熱海町二丁目に位置し、旧杉本邸から道のりで約1km離れており、自動車では約5分程度です。

どちらの住宅も標高200m以上の山手の別荘地エリアにあり、静かな環境と素晴らしい眺望を有しています。

一方、市内の文化施設の位置関係をみると、佐佐木信綱旧居である凌寒荘以外の主な文化施設はJR線付近あるいは旧杉本邸と反対のJR線以南に存在します。

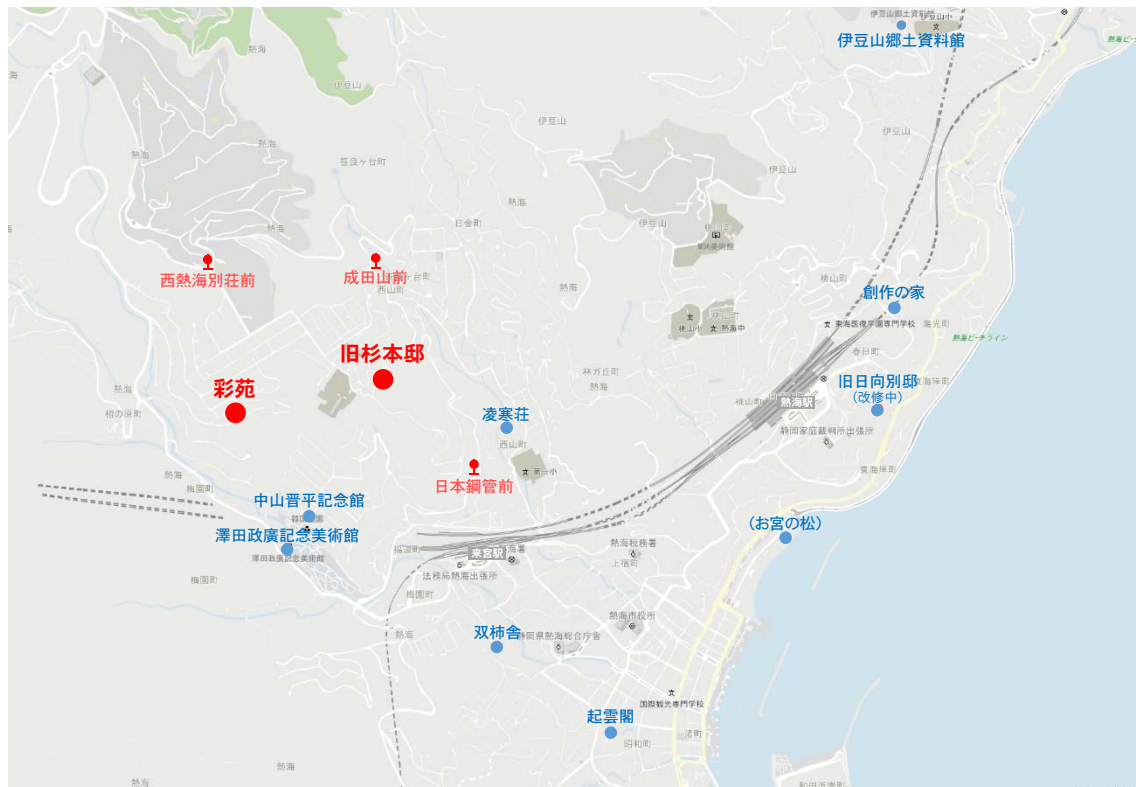
2. 旧杉本邸・彩苑の立地的課題

上記から旧杉本邸は、公共交通の便が悪く、大きな駐車場の確保が困難で、市内の主要観光ルートとも外れており、立地的に集客面で多くの課題を抱えています。実際に彩苑は、日曜日のみの開館ということもありますが、年間100人に満たない入館者数です(資料編P11参照)。

現状では、熱海と文学の関係は、『金色夜叉』以外にあまり知られていないといえます。本施設が、杉本氏の創作活動をはじめ、熱海市ゆかりの文学者の功績を伝える施設として永続

的に存在するためには、研究施設としてだけでなく、それ以上の魅力を多くの方々に知ってもらうことが重要だと考えます。そのためには、立地の不利を払拭する方策を講じ、文学のみならず観光の面でも魅力を備えた施設にする必要があると考えます。

【旧杉本邸・彩苑位置図】



3. 旧杉本邸と彩苑の活用方針

旧杉本邸は、平成7年に建築された築24年(令和元年現在)の住宅です。2年前までお住まいだったため、建物として現状では大きな損傷や不具合はみられません。また、資料の整理を一部で実施したほかは、書棚、書斎の机まわり、応接室の調度品や陳列品など生前のままに保存されています。

彩苑は、築年数が経っていること、2棟の運営は事業的に困難であることから、公開機能を旧杉本邸に集約し、収蔵庫など別途利用あるいは売却を視野に入れた整理の方向で検討中です。

(1) 旧杉本邸一般公開にあたり

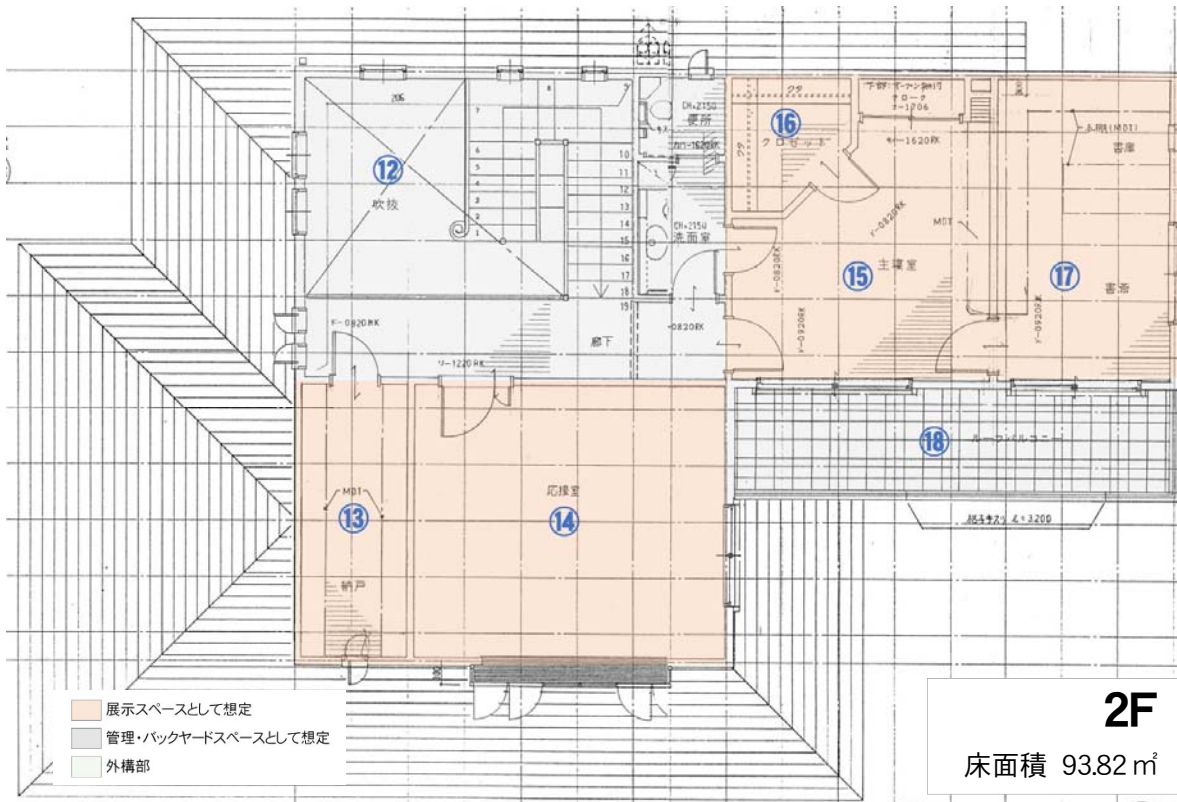
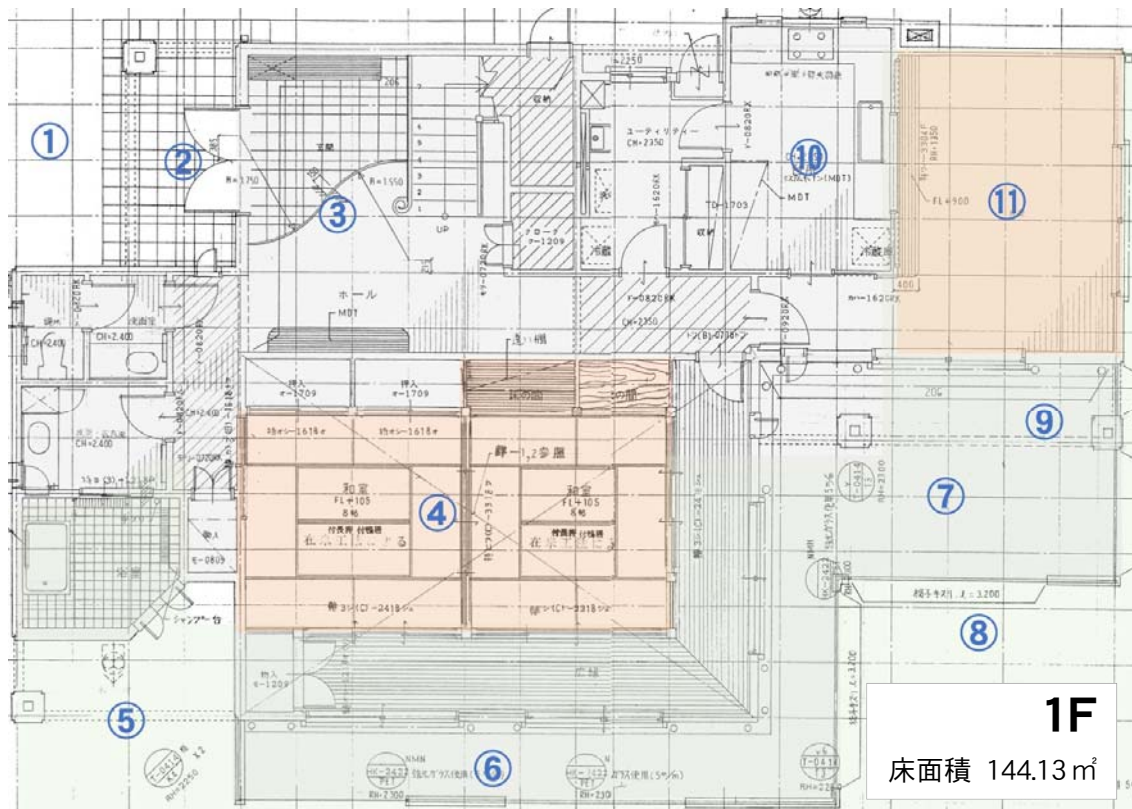
旧杉本邸を文学館として一般公開するにあたり、部屋の用途や設えを勘案し、公開する展示スペースと、受付や事務などの管理及びバックヤードスペースに分類しました(次ページ平面図参照)。

- ・2階書斎は、生前のままに保存している。この雰囲気を残したいと考える。
- ・2階バルコニー(⑱)からの眺望が素晴らしい。この眺めを活かしたいと考える。
- ・展示スペースとして活用できる諸室は、平面プランにオレンジ色で示した個所を想定している。
- ・展示スペースの中で、通常は来館者がくつろいで交流したり、ゆっくりと読書を楽しみ、イベント時には講座が開催できるような談話室的役割のサロンが必要かどうかを検討したい。また、必要とした場合に適した部屋はどこかを検討したい。
- ・庭に設置された物置きは撤去可能であり、撤去の方向で考える。

【諸室一般公開の考え方】

フロア	室名	利用の方向性(案)
1F	③玄関ホール	・受付など
	④和室(二間)	・展示スペース
	⑥⑦バルコニー	・カフェコーナーとして利用 あるいは、現状を維持し公開
	⑩台所	・管理・バックヤードスペース
	⑪食事室	・展示スペース
2F	⑬納戸	・管理・バックヤードスペースの書庫 あるいは、入室不可だが見せる書庫として展示化
	⑭応接室	・展示スペース あるいは、現状維持し公開
	⑮⑯主寝室	・展示スペース
	⑰書斎	・現状を維持し公開
	⑱バルコニー	・カフェコーナーとして利用 あるいは、現状を維持し公開

【旧杉本邸平面図】



※内部写真は資料編 P2~3 参照

(2) 一般公開の課題

以上のような設定で一般公開施設とした場合、以下のような建築、面積・設備などの課題が挙げられます。

① 建築的課題

a. 用途変更の手続き

不特定多数の来訪を前提とする「展示場」への用途変更を行い、屋内へ入館できる施設とする必要がある。

書類調査により、建築図面・確認申請書類の存在は確認したが、「確認検査済証」の存在は確認できない。用途変更を行うためには、確認申請書類に基づく調査を行い、その調査に基づき「展示場」への用途変更が必要である。

b. バリアフリー対策

現状は 1 階を含めて車椅子や移動に困難を伴う方の見学は困難である。エレベーター増築ができるとすれば屋外で、敷地面積的に不可能ではないが、杉本氏が暮らしていた当時の雰囲気損なうことと、予算的な負担が大きいことなどから、前提としては、エレベーター設置ではなく、玄関までのスロープ設置と人的な対応で検討を進めることとする。

また、主要な展示は 1 階部に設け、2 階は副次的な位置づけとした展示構成を検討する。

② 面積・設備的課題

a. 資料収蔵について

面積・設備の観点から、十分な収蔵スペースの確保が難しい。また、彩苑の保存環境があまりよくないことを考えると、旧杉本邸以外に収蔵場所を確保する必要がある。

b. バックヤードの確保

スタッフの事務スペース、資材倉庫などのバックヤードが現状の想定スペースでは不足している可能性がある。バックヤード必要面積の精査が必要である。

③ その他の課題

a. 露出展示の資料紛失対策

書斎や応接室など、杉本氏が使用していた状況を維持し露出展示とした場合、資料紛失対策をどうするか検討する必要がある。

4. 資料の保存環境に関して

現在、旧杉本邸と彩苑で収蔵している資料は、(仮称)熱海文学館に全て収蔵します。収蔵予定資料の概略を把握し、必要な保存環境を整備するための課題を整理しました。

(1) 旧杉本邸収蔵資料

① 整理済み資料

分類	詳細	点数	単位
1. 原稿類		199	点
2. その他貴重な資料	・吉川英治「新平家物語」第百四十五 3枚 ・直木賞目録・副賞祝儀袋各1(昭和38年1月23日)	2	点
3. 杉本苑子資料箱 (計 79 箱)	A.原稿または原稿コピー	6	箱
	B.書簡	9	箱
	C.賞関係書簡他、家計簿、未整理(書類・伝票・メモ手帳など)など	10	箱
	D.著作物(単行本・歴史書・ムック本など)	9	箱
	E.著作物(雑誌*完全な状態のもの)	5	箱
	F.著作物(雑誌*切抜部分)	4	箱
	G.新聞切抜	4	箱
	H.内容見本他	1	箱
	I.講演・シンポジウムパンフレットなど	1	箱
	J.観光パンフレット(一部取材時に使用したメモもあり)	1	箱
	K.写真	3	箱
4. 書簡差出人	157名 ※詳細は資料編 P4 参照	161	通
	※詳細は資料編 P4 参照	22	軸

② 図書(書庫、書齋)



2F 書庫



2F 書齋

③ 陳列資料(和室、食堂、応接室、書齋)

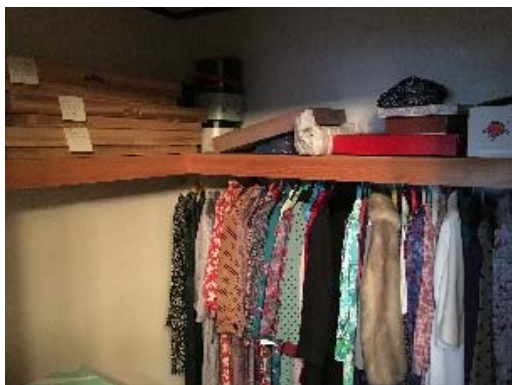


1F 和室



1F 食事室

④衣類



2F 応接室



2F 主寝室

⑤ 小間物(和室)

※写真中、軸物は整理済み①に含まれる



1F 和室

(2) 彩苑収蔵資料

① 茶箱 14 箱

資料番号	詳細	資料名称	制作者等	数量
23	原稿	「落とし穴—鎌倉釈迦堂の僧たち」生原稿(複製)	杉本苑子	1
61	原稿	「路」校生ゲラ(光文社)(複製)	森村誠一	1
62	原稿	「鎌倉釈迦堂異聞 笑顔」生原稿(複製)	杉本苑子	1
243	原稿	「路」初稿校生ゲラ(光文社発行)(原本)	森村誠一	1
629	原稿	「鎌倉釈迦堂異門(1)落とし穴」原稿(41 枚)	杉本苑子	1
630	原稿	「鎌倉釈迦堂異門(2)流れ星」原稿(42 枚)	杉本苑子	1
631	原稿	「鎌倉釈迦堂異門(3)笑顔」原稿(40 枚)	杉本苑子	1
632	原稿	「鎌倉釈迦堂異門(4)負け犬」原稿(43 枚)	杉本苑子	1
633	原稿	「鎌倉釈迦堂異門(5)つくも髪」原稿(42 枚)	杉本苑子	1
634	原稿	「鎌倉釈迦堂異門(6)きのこ汁」原稿(49 枚)	杉本苑子	1
635	原稿	「鎌倉釈迦堂異門(7)あとがき」原稿(3 枚)	杉本苑子	1
636	原稿	「柿の木の下」原稿(25 枚)	杉本苑子	1
637	原稿	「杖」原稿(40 枚)	杉本苑子	1
638	原稿	「孔雀」原稿(40 枚)	杉本苑子	1
639	原稿	「華髪」原稿(44 枚)	杉本苑子	1
640	原稿	「胡女」原稿(44 枚)	杉本苑子	1
641	原稿	「随想 小さな時計」原稿(8 枚)	杉本苑子	1
642	原稿	「つかみどころ無し」原稿(6 枚)	杉本苑子	1

643	原稿	「薬玉」原稿(43 枚)	杉本苑子	1
760	原稿	「防火の武士」原稿(66 枚)	森村誠一	1
761	原稿	「■の捕物帳解説」原稿(18 枚)	森村誠一	1
762	原稿	「陰火の武士」原稿(5 枚)	森村誠一	1
763	原稿	「路(みち)1」原稿(21 枚)	森村誠一	1
764	原稿	「路(みち)2」原稿(29 枚)	森村誠一	1
765	原稿	「路(みち)3」原稿(30 枚)	森村誠一	1
766	原稿	「路(みち)4」原稿(22 枚)	森村誠一	1
1286	原稿	「かっぱ屋敷」原稿(31 枚)	島田一男	1
1287	原稿	「飛鳥源平夜合戦」原稿(117 枚)	島田一男	1
1288	原稿	「ニーナと糠漬け」原稿(9 枚)	島田一男	1
1289	原稿	「西太后の朝餉」原稿(9 枚)	島田一男	1
1290	原稿	「窓」原稿(3 枚)	島田一男	1
1291	原稿	「ミステリーゾーン発掘 三保羽衣の松」原稿(44 枚)	島田一男	1
1292	原稿	「行った処・会った人」原稿(15 枚)	島田一男	1
1293	原稿	「鑑識捜査官」原稿(77 枚)	島田一男	1
1294	原稿	「公安機動捜査隊」原稿(15 枚)	島田一男	1
1295	原稿	「豪華客船殺人事件」原稿(本稿 10 枚、下書き 92 枚計 102 枚)	島田一男	1
1296	原稿	「熱海天守坂の殺意」原稿(No.1 91 枚、No.2 61 枚計 152 枚)	島田一男	1
1297	原稿	「死者の谷」原稿(20 枚)	島田一男	1
1298	原稿	「死者の谷」原稿(19 枚)	島田一男	1
1299	原稿	「自分の作品のキャラクターを語る ほか」原稿(8 枚)	島田一男	1
1300	原稿	「特急捜査網 女弁護士之死」原稿(78 枚)	島田一男	1
1301	原稿	「七本の絵蠟燭 幻の兵隊さん」原稿(29 枚)	島田一男	1
1302	原稿	「喧嘩政極道帖 妖しい笑顔」原稿(126 枚)	島田一男	1
1303	原稿	「短編複数(題名不詳)」原稿(合計 439 枚)	島田一男	439

② 展示中の資料



1F 展示室 (杉本氏著作、原稿等)



2F 展示室（杉本氏所蔵の関係者資料）

(3) 保存環境的な課題

現状、ダンボール箱だけでも約 100 箱あり、今後、中性紙対応など永続的な資料保管措置をとると保管箱は倍増することが想定されます。11 ページで述べたように、面積・設備的に旧杉本邸の一括収蔵は困難であるため、資料収蔵スペースを別途確保する必要があります。

また、収蔵資料の多くは紙ものであるため、温湿度管理は必須要件となります。

(4) 収蔵スペースの候補

収蔵予定資料のおおよその分量と資料形態、継続使用の可能性などを踏まえ、収蔵スペースとして 3 件の候補地が挙げられます(次ページ参照)。そのほか、教育委員会管理施設において収蔵することも検討する可能性があります。

永続的な資料保存と予算的な実現性を勘案するとそれぞれ一長一短あり、更なる精査を行い、収蔵スペースを確定する必要があります。

【収蔵スペース候補地とメリット・デメリット】

No.	名称／所在地	概要等	メリット	デメリット	注意点等
1	彩苑 西熱海町二丁目	木造2階建 S52 築 床面積 152 ㎡ ※文化施設として公開中	・距離至近(道のり約 1 km) ・保管に必要な大きさ確保可能 ・玄関に数段の段差あるが保管物の搬出入に大きな支障なし	・耐震化未実施 ・老朽化の進行 ・防湿・温度管理設備なし ※温湿度測定資料:資料編 P5 参照	・彩苑の公開終了が条件となる ・遺贈契約により売却の可能性がないとはいえない
2	熱海市役所 第2庁舎 3階 中央町 (市役所敷地内)	SRC 半地下 1 階地上 3 階 S48 築 延床 1,934 ㎡ ※教育委員会が倉庫として使用	・耐震補強済み ・保管に必要な大きさ確保可能 ・市役所と同等のセキュリティ	・老朽化の進行 ・防湿・温度管理設備なし	・市の公共施設管理施策により将来解体となる可能性あり
3	旧杉本邸 駐車場 新築収蔵庫 西熱海町一丁目	旧杉本邸駐車場	・距離至近で至便 ・保管に必要な大きさ確保可能 ・収蔵庫として新築するため、収蔵庫として必要十分な機能を確保可能	・建設資金が必要 ・駐車場面積の減少	

【収蔵スペース候補地位置図】



Ⅲ 熱海市の文学・文化活動状況

熱海市の上位計画と生涯学習の活動状況を踏まえ、(仮称)熱海文学館が熱海市においてどのような位置づけを果たすべきか検討します。

1. 熱海市の上位計画における位置づけ

平成28年3月策定の『第四次熱海市総合計画 後期基本計画』において、文化の振興が重点施策のひとつに挙げられています。総合計画策定時は(仮称)熱海文学館の検討が始まっていないため記載はないものの、「まちを匂わせる(文化の振興)」、「文化・芸術の発表の場となる文化活動の拠点整備を進める」という方向が、本事業が依拠する施策に当たります。あわせて、現在策定中の『第五次熱海市総合計画』との調整も必要となります。

【「第四次熱海市総合計画 後期基本計画」(抜粋)】

2 賑わいと癒しの創造

[1] 魅力ある湯治場としての復活 [2] 熱海らしい観光まちづくりによる満足度の向上

<重点化施策>

(3) まちを匂わせる(文化の振興)

現状と課題

本市は古くから、温泉保養地として栄え、政治家や多くの文人墨客に愛されていたことから、彼らの別荘や旧居が多数存在しています。

特に国の重要文化財として指定を受けている「旧日向家熱海別邸(旧日向別邸)」、熱海市指定文化財である「起雲閣」、国の史跡に指定された、「江戸城石垣石丁場跡」が現存しています。

これは、先人たちが育み、守りぬいてきた貴重な財産・資源であるといえます。

しかし、多くの市民にとって、その文化財の重要性和歴史的価値が十分に認識されているわけではありません。

この貴重な財産・資源を次世代へ継承していくためには文化財の重要性和歴史的価値の認識を高めることが求められています。

そのためには、残すべき貴重な財産・資源を魅力あるものとして発信するとともに、市民の文化活動を支援し、文化意識の高揚を図っていくことが求められています。



施策の方向

- ◇ 文化意識の高揚を図るため、次世代を担う子ども達の文化活動支援を行います。
- ◇ 市民や観光客のニーズにあった文化活動に対する活動の場の提供・支援により文化活動の活性化を図ってまいります。
- ◇ 文化・芸術の発表の場となる文化活動の拠点の整備を進めます。
- ◇ 起雲閣について熱海市指定文化財として適正に管理運営するとともに、来館者の満足度を高めるような主催事業を実施していきます。
- ◇ 歴史的資源として存在する文化財の魅力の発信に努め、意識啓発を進めます。
- ◇ 熱海市内で唯一の国指定重要文化財建物である旧日向別邸について保存に努めるとともに後世に伝えられるよう整備を進めます。
- ◇ 江戸城石垣石丁場跡については、重要な遺跡であることから、活用に向けての取り組みを近隣市町とともに進めてまいります。



また、『熱海市教育振興基本計画 後期基本計画』における、「重点事業 市民自らが学べる生涯学習環境づくり」「重点目標 文化財や伝統文化等の保存・継承」、『熱海市生涯学習推進大綱』における、「文化をはぐくむ誇れるまちづくり」も本事業が依拠する施策に当たります（※詳細は資料編 P6 参照）。

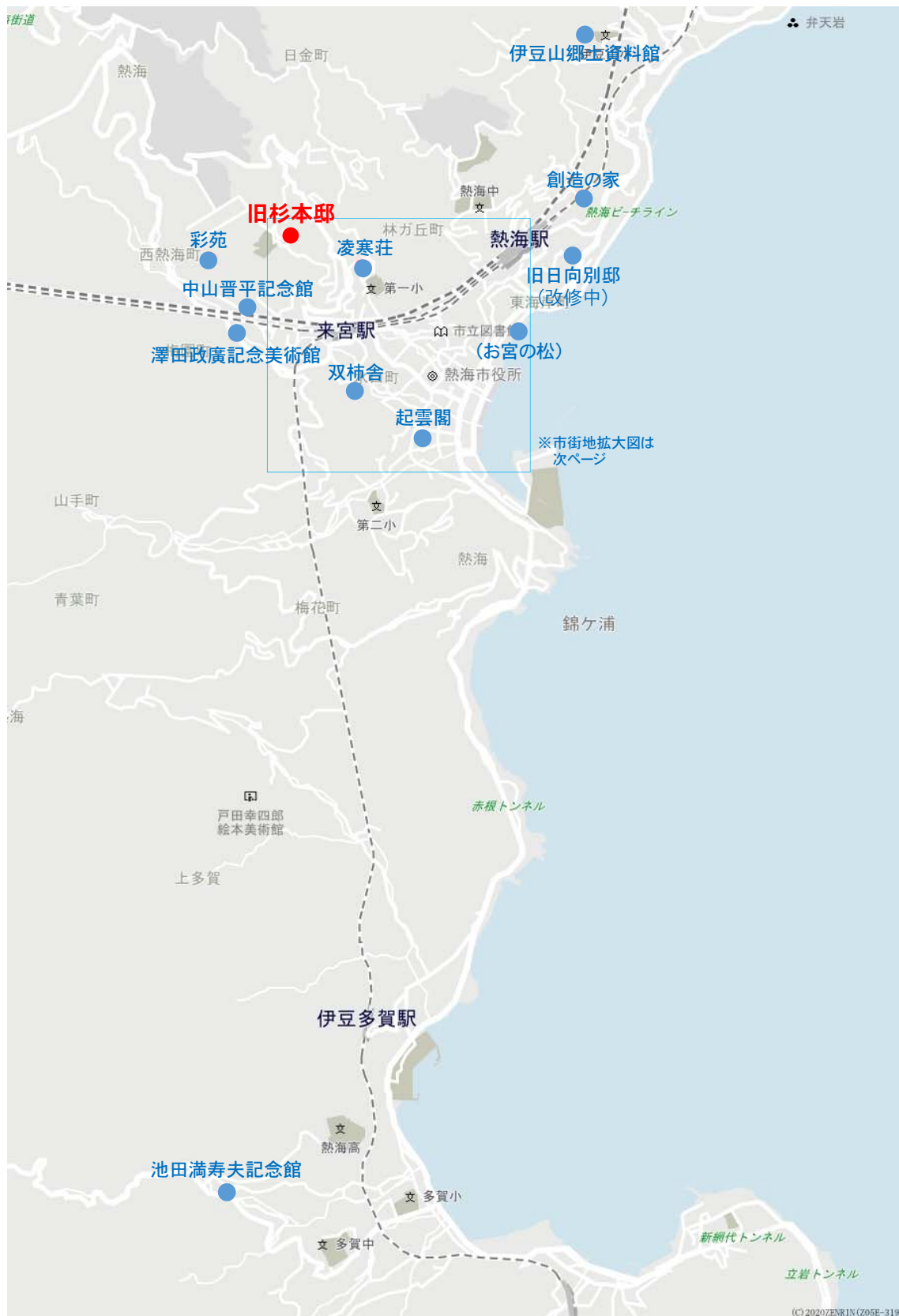
2. 熱海市の文学・文化関連施設と生涯学習活動状況

首都圏に近い温泉地として、その存在を中世まで遡ることができる熱海には、文化人、政財界の方々など著名な方の別荘や、温泉地の歴史・文化を伝える文化財、施設が多数存在します。そうした風土の中で継続されてきた市民の生涯学習活動は、本事業を推進する重要な土壌となるものです。

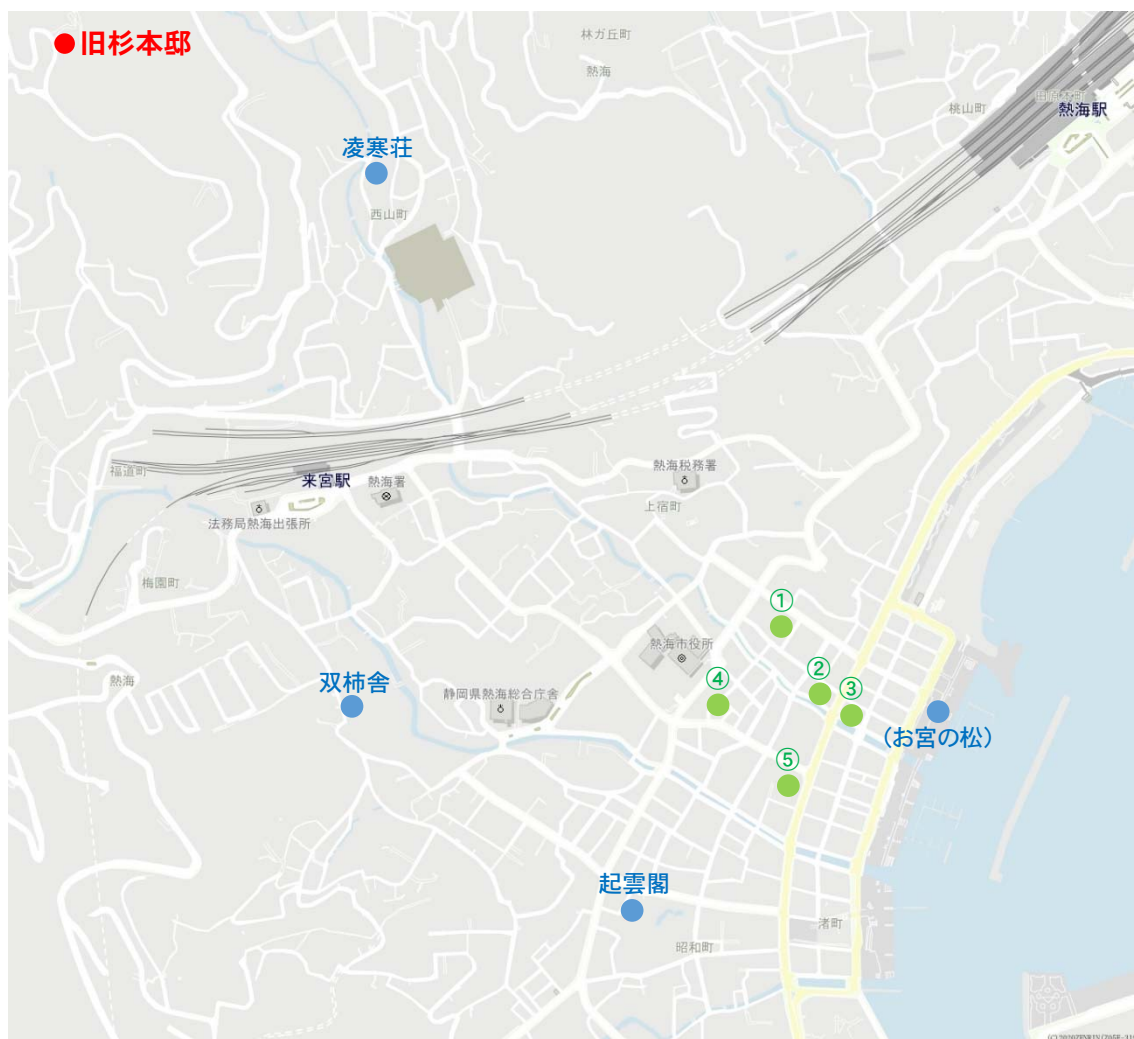
(1) 熱海市の文学・文化関連施設

熱海市は、杉本氏の別荘だけでなく、山本有三や太宰治などに愛された旅館の起雲閣、万葉集研究で著名な佐佐木信綱が晩年を過ごした凌寒荘や、シェイクスピアの翻訳家としても有名な文豪、坪内逍遙の最晩年の住宅である双柿舎があり、また熱海は、重要場面の舞台となった作品として名高い『金色夜叉』、志賀直哉、谷崎潤一郎、太宰治、檀一雄など近代・現代の文学者とのエピソードが残る店など、文学に関わる施設やスポットが多数存在する文芸のまちともいえます。

【熱海市の文学・文化関連施設-1】



【熱海市の文学・文化関連施設-2】



- ① ボンネット(喫茶店)
1952年創業三島由紀夫、谷崎潤一郎、越路吹雪、三輪明宏、広津和郎など名だたる著名人が訪れた。ハンバーガーが名物。当時のことを知るマスターの話が聞きたくて訪れる人もいる。
- ② モンブラン(洋菓子店)
1947年創業。志賀直哉がお気に入りだったお菓子がある。現在も販売。
- ③ スコット旧館(洋食店)
1946年創業。志賀直哉などが通っていたことで有名。
- ④ ゆしま(ジャズ喫茶)
1964年創業。熱海が観光地として隆盛を極めていた1950～60年代、市内ホテルで行われていたジャズライブの終演後バンドマンが訪れるなど当時の様子を知る老舗。
- ⑤ 旧村上旅館
「走れメロス」執筆のきっかけになったといわれる太宰治と檀一雄とのエピソードが残る旅館。現在はたばこ販売のみを行う。

(2) 熱海市の生涯学習活動

熱海市内の生涯学習活動で、特に文学関連の活動、イベントを以下に挙げました。

① 文学及び本に関するサークル

- a. 朗読サークル:熱海市立図書館において年6回朗読会を開催
- b. 歌人協会:熱海市文化団体連合会所属サークル。短歌結社の集合体
- c. 俳句人協会:熱海市文化団体連合会所属サークル。俳句結社の集合体

② 文学に関する市民講座

- a. 古事記を読む講座:中央公民館主催「市民大学」の1講座。年8回
- b. 図書館講座「熱海の歴史をひもとく」:図書館主催。年3～4回

③ 文学に関する生涯学習イベント

- a. 佐佐木信綱祭短歌大会(6月上旬):起雲閣
信綱の教えを受け、理念を継承した凌寒会が主催する公募短歌大会
- b. 源実朝を偲ぶ仲秋の名月伊豆山歌会(仲秋の名月の日):起雲閣及び伊豆山神社
歌人将軍・源実朝を偲び、仲秋の名月に開催される公募短歌大会
- c. 尾崎紅葉(こうよう)祭(1月17日):お宮の松前 「筆塚祭」も同時開催
熱海の地を広めた『金色夜叉』の作家尾崎紅葉の偉業を称える記念祭
- d. 逍遙忌記念祭(2月28日):起雲閣
晩年を熱海で過ごした、坪内逍遙の記念祭
- e. 熱海市民文化祭「短歌大会」(11月上旬):歌人協会主管
「俳句大会」(11月上旬):俳句人協会主管
市民の日ごろの芸術文化活動を発表する文化祭で開催される、短歌、俳句大会

※参考文献

『生涯学習のしおり 平成30年秋・冬号』熱海市教育委員会生涯学習課 編集

『生涯学習のしおり 平成31年春・夏号』熱海市教育委員会生涯学習課 編集

IV 熱海市の観光動向

熱海市は日本を代表する温泉地です。立地に多くの課題を抱える本施設に多くの来訪者を迎えるためには、熱海温泉に訪れる観光客動向を勘案することが、施設の方向性を検討するうえで必須であると考え、現状を整理しました。

1. 熱海市の観光客動向

熱海市は首都圏近郊の温泉地として名を馳せ、近年では奇跡の V 字回復と言われる観光施策を成功させた市として有名であり、宿泊者が年間 300 万人を超える温泉地です。また、海上花火大会や梅まつりなど 1 年を通して様々なイベントが開催されて多くの方が訪れています。文学・文化に関連するイベントとの連携なども、温泉観光客とあわせて検討する必要があります(詳細は資料編 P7 参照)。

【熱海市の宿泊客数最新データ】

区分	観光交流客数		宿泊施設利用人数 (平成30年5月末日現在)				観光レクリエーション客数	
	(A+B)	前年比	計 (A)	宿泊	休憩	前年比	(B)	前年比
平成29年度	6,976,143	106.1 %	3,295,717	3,088,140	207,577	102.3 %	3,680,426	109.8 %
4月	509,414	108.8 %	231,838	220,256	11,582	90.4 %	277,576	131.1 %
5月	588,136	93.1 %	249,335	235,478	13,857	101.5 %	338,801	87.8 %
6月	440,883	126.1 %	234,756	213,365	21,391	114.4 %	206,127	142.7 %
7月	657,482	106.8 %	269,670	256,052	13,618	101.2 %	387,812	110.0 %
8月	1,042,071	97.2 %	382,434	364,373	18,061	100.6 %	659,637	95.3 %
9月	456,744	106.0 %	259,374	235,215	24,159	100.2 %	197,370	114.8 %
10月	433,592	108.4 %	245,924	233,904	12,020	101.1 %	187,668	119.8 %
11月	538,207	123.4 %	287,605	275,369	12,236	118.2 %	250,602	129.9 %
12月	466,062	95.9 %	280,060	264,771	15,289	97.3 %	186,002	93.8 %
1月	760,458	109.9 %	260,419	245,208	15,211	100.2 %	500,039	115.7 %
2月	496,709	106.1 %	258,509	241,518	16,991	98.1 %	238,200	116.4 %
3月	586,385	111.9 %	335,793	302,631	33,162	107.1 %	250,592	118.5 %

資料:市民生活部税務課、静岡県観光政策室

「平成 30 年度版 熱海市の観光」より

観光地の中で注目されるのが、起雲閣の集客力の高さです。年間約 12 万人(平成 30 度)の入館者があります(詳細は資料編 P11 参照)。市街地にあり、温泉観光の途中で気軽に立ち寄れる好立地と瀟洒な別荘建築と庭園の美しさが魅力です。なお、起雲閣には貸会場もあり、そこで実施されるイベントなどの来場者は入館者にカウントされていないため、起雲閣を訪れている方は更に多いと想定されます。

また、起雲閣には、尾崎紅葉、坪内逍遙、起雲閣にゆかりのある文豪を紹介する常設展示室と、企画展示室が既にあり、これまで企画展示室では、文学や文化にかかわる様々な企画展示を実施しています。

熱海市ゆかりの文学者を紹介する本事業と、歴史的にも建築的にも親和性が高いため、何らかの連携を可能にすることで、本事業の集客性を高めることにつながると考えます。

【起雲閣入館者動向】 ※詳細は資料編 P12 参照

- ・入館者数は 12 万人(平成 30 年度)で、文化施設としては集客力が高い
- ・中高年の女性がメイン来訪者層である
- ・市内・近隣市町村からの来訪及びリピーターが少ない。宿泊者が約 8 割という数値もある
- ・多くが初来熱の温泉宿泊者である



起雲閣内部写真



起雲閣内展示室写真

熱海市には約 9,100 件(「令和元年別荘等所有税調定及び収入状況」より)の別荘が存在し、首都圏から定期的に熱海を訪れる方々がいらっしゃいます。その別荘所有者を対象としたアンケート調査によると、市内の移動手段として、自家用車、タクシー利用がほぼ 8 割を占め、1 年の来訪回数が 6 回以上の方が 7 割を占めており、2~3 泊ほど熱海に滞在するという方が 6 割を占めます。60 代~70 代が 7 割で、来熱時には温泉でゆっくり静養し、時にはおいしいものを食べるという過ごし方が見えてきます(詳細は資料編 P8~10 参照)。

一過性の高い観光客と違い、熱海への愛着が強いと思われる別荘所有者の求めるものを、高齢の方の利用度も高い SNS を通じて提供することを検討する必要があります。

2. 熱海市の観光施策

平成 19 年策定の現行「熱海市観光基本計画」では、目指すべき姿を「長期滞在型の世界の保養地」とし、熱海観光の原点である「温泉」を再評価して長期滞在型の何度来ても新しい発見と癒しを体験できる“現代の湯治場”となることを掲げています(詳細は資料編 P13~14 参照)。

中でも、実現のための 4 つの柱の 1 つ目が「温泉中心主義—湯治場「熱海」の復権—」であり、“熱海温泉の歴史・文化を再検証するとともに、温泉があることにより生み出された「芸妓」、「食」、「文豪・文学」などを体系化し、「熱海文化」を確立”としていることが注目されます。また、3 つ目の柱の「歩いて楽しい温泉保養地—経済効果の各業界への拡大—」の中にある「(3) 歴史・文化を活かしたルートづくり」も本事業と関係性の高い項目といえます。

今後は、現在策定中の次期計画との整合も検討する必要があります。

【熱海市観光基本計画(抜粋)】

基本計画 I 温泉中心主義—湯治場「熱海」の復権—

1 温泉資源の見直し・活用

(1) 温泉文化の再生

熱海温泉の歴史・文化を再検証するとともに、温泉があることにより生み出された「芸妓」、「食」、「文豪・文学」などを体系化し、「熱海文化」を確立します。

(2) 温泉の科学的活用

「熱海に来たら元気になる」というような、温泉、食事、運動、医療をセットにした新たな湯治スタイルの提案・企画を支援していくとともに、新たな温泉表示システムについて検討していきます。

(3) 温泉を核にしたまちづくり

温泉情緒感じられる街づくりのために湯けむりによる演出や、外湯施設の整備を行うとともに、湯めぐり手形の導入、街路・景観・史跡・観光施設などコンセプトを統一した街並み整備を推進していきます。

3. 「温泉文化」観光実現のために

以上を踏まえて、観光基本計画の柱のひとつである「温泉文化」を再生し、熱海を長期滞在型の現代の湯治場とするために、文学の視点から貢献できる事柄を以下に挙げました。本施設がこれらを果たすことにより、観光計画の実現性を高めるとともに、本施設に多くの観光客を誘引することが可能になると考えます。

a. 文学が感じられるまち歩きの仕組みをつくる

観光基本計画にもあるように、「温泉文化」の再生に文学は外せないものでありながら、多くの観光客にとって、お宮の松と起雲閣の展示室その他の文学関係施設以外に熱海と文学の関わりを知る機会が乏しいのが現状です。

熱海と文学の関わりを体系的に知ることができ、点在するゆかりの地をめぐる仕組みが必要とされていると考えます。

b. 文学の世界に浸るサービスを提供する

文学の世界や読書に浸ることは、熱海が目指す長期滞在型の温泉地に求められるものと重なる部分が多いと考えます。また、別荘所有者の熱海滞在時の過ごし方として読書がある程度の割合を占めていることから、熱海の文学を伝える様々なメディアや読書への便宜を図るサービスの提供を検討する必要があると考えます。

V 設立準備委員からの提言

これまでの準備委員会において、(仮称)熱海文学館の市の施策上の考え方や施設の運営方法等について委員から出された主な意見を以下に示します。

1. 熱海の文化力を発信する総合テーマの設定

第2回委員会開催後、内川委員から以下のとおり提言がありました。本事業の範囲を超える内容ではありますが、他の委員からの賛同もあり、検討を諮ることになりました。

委員会の意図は、P25でも述べているように、本事業は熱海市の観光施策とも関係性が高く、市の施策における(仮称)熱海文学館の位置づけを確認すると同時に、文学やまちづくりの専門家としての立場から、市全体の文化体系をつくり上げていく発想を常に念頭に置いて計画を練っていきたいという考えによるものです。

【内川委員提言】

今回は杉本苑子先生の遺志を継ぐ記念文学館建設という点が眼目であることは言うまでもないが、**熱海全体の文化発信を考える絶好の機会**でもある。そこで、必要なのが**熱海の文化を総合的に発信する仕組み**を考え、その中の一つの要素として「**熱海と文学**」の位置付けを**確かなものにする**という考え方が必要なのではないか。記念文学館建設をコアとした発想だけで終わってしまったのでは、数多ある熱海を底上げするための重要な要素が埋もれてしまいかねないからである。そこで必要なのが**熱海の文化力を発信する総合テーマの設定**である。これを確かなものにしておけば、最終的に熱海の文化資源が生かされ様々な魅力を伝える事ができると考える。仮ではあるが以下のようなテーマが想定される。

◇ **総合テーマ(仮)**

「**温泉の街“あたみ”総合ディスカバリープラン**」

◇ **個別テーマ(仮)**

- “いで湯の街”あたみ - ホテル・源泉・温泉史・関連施設
- “歴史の街”あたみ - 埋蔵文化財・伊豆山神社・伊豆修験
- “文芸の街”あたみ - 坪内逍遙・尾崎紅葉・杉本苑子他多数 旧宅・別荘
- “芸術の街”あたみ - 指定文化財・MOA美術館 作家 池田満寿夫他
- “坂の街”あたみ - “坂あるき”の極意
- “賢人の街”あたみ - 政財界 根津嘉一郎他多数
- “うつくし”あたみ - 自然の見どころ紹介
- “うまし”あたみ - 土産物・レストラン・カフェ

※ このような発想で国が舵取りを行った観光資源を活用するための施策である令和2年度の「**文化財保存活用地域計画**」にエントリーし、全体計画の一部として文学館の基本計画書を出口にすれば良いのではないか。エントリーシートの書き方などは7月24日文化庁が開催した**文化財保存活用地域計画研修会資料**などがある。

※ コンセプトが明確で情報が充実しハイセンスなものであれば、**コアミュージアムは暫定的には仮想(HP上)でも良い**。ただし、多くの人々が集う**駅周辺に情報提供の場**が必要。多くの観光客が情報をスマホで得ている現状を考えれば、このような発想も必要かと思う。

2. 熱海市立図書館との関わり

この基本構想の議論開始時より、熱海市立図書館の将来像との関わりについて意見が出ていました。熱海文学館の開設を目指す上で、市立図書館の充実が文化都市・熱海の発展に必要であることは言うに及ばず、文化と観光をどのように結びつけるかという課題の鍵を握る施設であると言えます。しかしながら、これまでの経緯や現状を見るかぎり、図書館の将来計画についてはまだ見通しがはっきりしないとのことであり、そのピースを埋めることが今後の市の文化・観光行政に与えられた課題の一つであると考えられるというものです。

3. その他の意見

その他の意見として、共通入館券の導入、市全体として広域の観光案内サインの整備や情報提供の方策検討、かつ実施主体としては市長部局がふさわしいなどの意見もありました。

VI (仮称)熱海文学館の基本的な考え方

これまでの検討を踏まえ、(仮称)熱海文学館が目指す基本的な考え方を以下に示します。

1. 基本的な考え方

(1) 杉本氏の遺志を尊重した文学館

－杉本氏をはじめ熱海市ゆかりの文学と文学者を紹介し熱海と文学の関わりの深さを伝える

- ・平成 7(1995)年、杉本氏と熱海市が交わした遺贈契約に依拠し、著作権を含めた全ての遺産を熱海市に託した杉本氏の遺志を尊重した文学館を実現することを第一義とする。
- ・契約書の「建物を「熱海文学館(仮称)」として、熱海市にゆかりのある文学者の記念館とすることは熱海市にとってきわめて意義があることと考えており」という記述を真摯に受けとめ、現在および将来に渡って熱海市にとって意義ある施設とする。
- ・遺贈契約に基づき、杉本氏をはじめ吉川英治氏や熱海市ゆかりの文学と文学者の資料を保存し、その魅力を永続的に伝える文学館として十分な機能と体制を整えた施設とする。

(2) 多くの方々に熱海文学の魅力伝える文学館

－旧杉本邸を中心に市街地施設と一体的な施設とすることで、熱海の文学への理解を深め、多くの来訪者を迎える施設とする

- ・旧杉本邸は、(1)の内容を網羅した(仮称)熱海文学館として設置する。
- ・併せて、立地の課題を解消する方策の一つとして、観光資源が集中する市街地にあり、(仮称)熱海文学館への誘導を図る施設を仮に「市街地施設」とし、必要性も含め今後検討する。
- ・市街地施設では、温泉文化がはぐくんだ、文学と関わりの深い街として熱海を紹介し、「文学と温泉のまち・熱海」をテーマとした展示を展開する。
- ・文学との関係性が高い「起雲閣」、杉本氏の作品との親和性が高い「MOA 美術館」や、作家ごとの専門施設である既存の「凌寒荘」、「双柿舎」、「創作の家」との連携強化を図る。

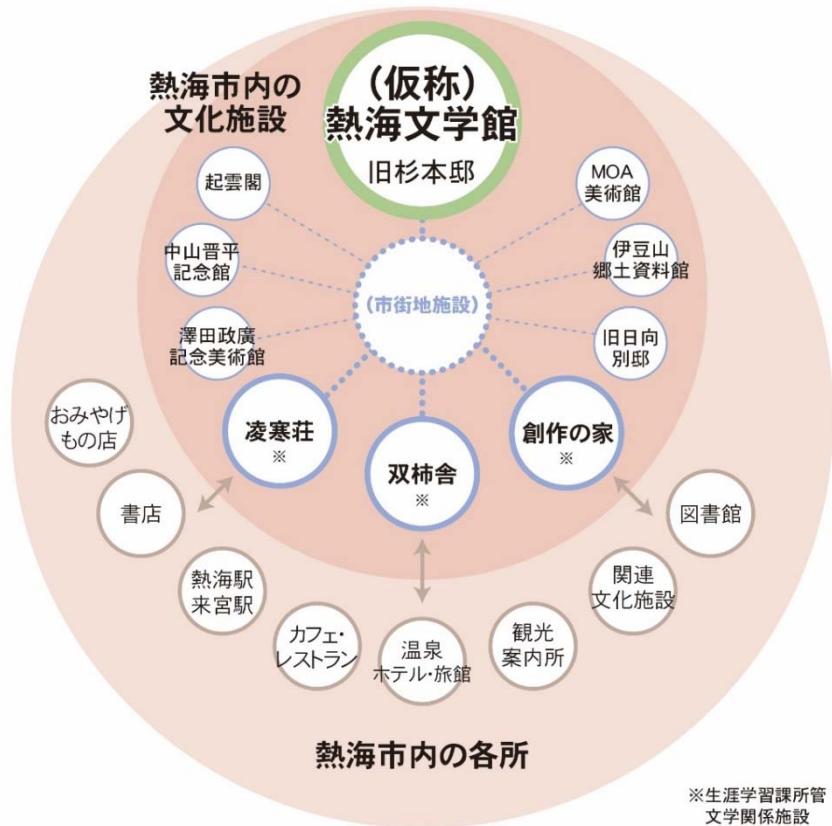
(3) 温泉文化ツーリズムの拠点となる文学館

ー市内各所に文学の入り口を設ける仕掛けなど、温泉文化ツーリズムの拠点づくりを検討する

- ・熱海と文学の関わりは市内各所にも点在し、町なかの文学ポイントに触れられることが、熱海観光の大きな資源である。現状は見えにくいそれらの文学ポイントを顕在化することにより、熱海市が目指す温泉文化ツーリズムの実現を図る。
- ・具体的には、市街地に設ける予定の市街地施設により、熱海文学の全体像を伝えること、既存の文学関係施設との連携企画、まちなか文学スポット紹介などの検討を行う。
- ・更に連携先を熱海市全域に広げ、様々な講座やイベントの企画、ホームページや冊子など情報発信のメディアを設けることなどにより、熱海と文学の関わりとその魅力を発信し、文学の世界や読書に浸る“温泉文化ツーリズム”の拠点となることを目指す。

以上を踏まえ、旧杉本邸を中心とした各施設の関係性を表した構成図を以下に示します。

【(仮称)熱海文学館と市内施設との関係】



2. 基本方針

(1) 保存・公開機関として

－杉本苑子氏をはじめとした熱海市ゆかりの文学・文学者の資料を保存・展示する

- ・収集・保存した資料を体系的に分類整理し、適切な環境で安全に保存する
- ・熱海市ゆかりの文学・文学者に関する調査研究を行う
- ・デジタル化等、資料の利活用を促進することを検討する
- ・文学館の活動成果を展示に活かすとともに、ホームページ等で多くの人々に公開する

(2) 生涯学習機関として

－文学を通じた市民の生涯学習に寄与する事業を行う

- ・文学の魅力を多くの市民等に発信し、共有を図ることができるよう、イベントや講座等の開催可能なスペースを検討する
- ・文学に関する市民等のサークル活動に対し、研究、発表の場を提供する
- ・子どもたちが文学に触れる機会を提供し、学校教育との連携を検討する
- ・文学を通じ温泉文化が息づく熱海の魅力を伝えるイベントの実施を検討する

(3) 地域振興機関として

－文学のまち・熱海を多くの人々に知ってもらう

- ・観光客に「文学のまち・熱海」を知ってもらうための様々な取り組みを行う
- ・ホームページ等を通じて国内外に「文学のまち・熱海」をアピールする
- ・市街地の施設と連携し、相互の集客力を高める方策を検討する
- ・長期滞在温泉客向けの文学・読書サービス提供を検討する

3. ターゲット層と施設機能

これまで検討したように、本施設の来訪者は、文学に関心が高い方だけでなく、文学に関心の薄い方を含めた多様な方々を想定しています。その方々に多様な入口を設けるとすることも本施設の大きな特徴となると考えます。そのため、想定されるターゲット層の動向を念頭に各施設の役割と事業を検討する必要があります。

ターゲット層を大きく3つに分類し、それぞれの動向を以下に検討しました。

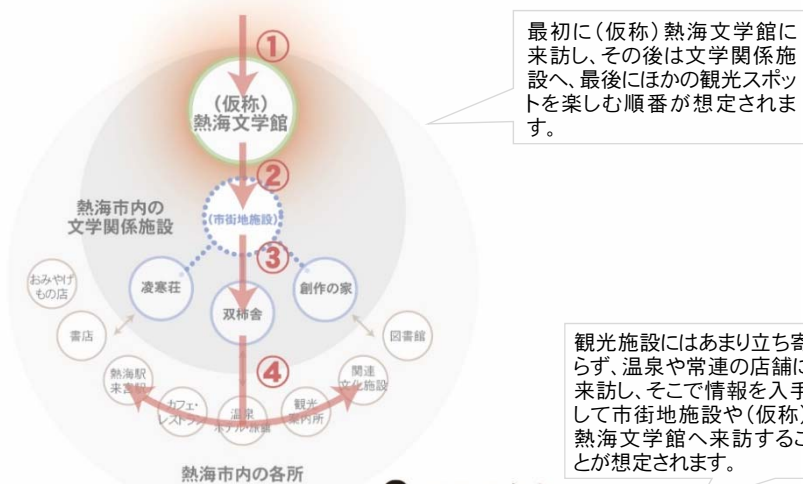
杉本氏や歴史小説ファン、文学に詳しい方々は、(仮称)熱海文学館を目指して来訪することが考えられます(A)。

1泊2日で温泉が目的の一般的な観光客の方々は、市街地施設を訪れた際、副次的に熱海文学について知り、時間があれば(仮称)熱海文学館や既存の文学関係施設を訪れる可能性が考えられます。つまり、一般的な観光客の方向けには、次回の来訪時に(仮称)熱海文学館に行ってみたいと思ってもらうことが重要であると考えます(B)。

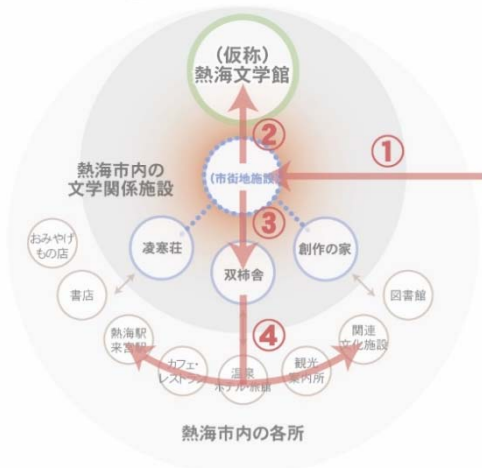
一方で、同じ観光客でも複数回数熱海に来訪するヘビーリピーターの方々や長期滞在する方々、別荘所有者の方々は、主要な市街地の観光施設は来訪済みで、あまり訪れない可能性があります(C)。本施設としても熱海市としてもこの層の方々に楽しんでいただける施設とすることが重要であると考えます。

【ターゲット層別の移動順予測】

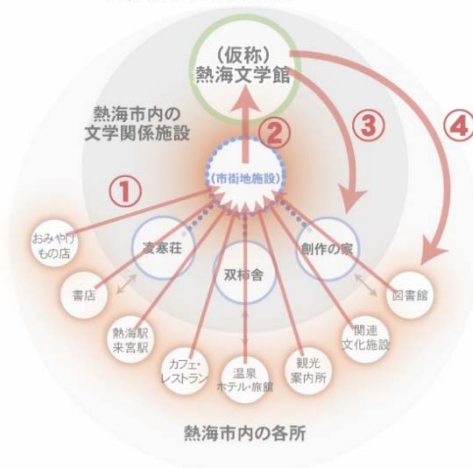
A 杉本氏ファン・文学に詳しい方々



B 一般的な観光客



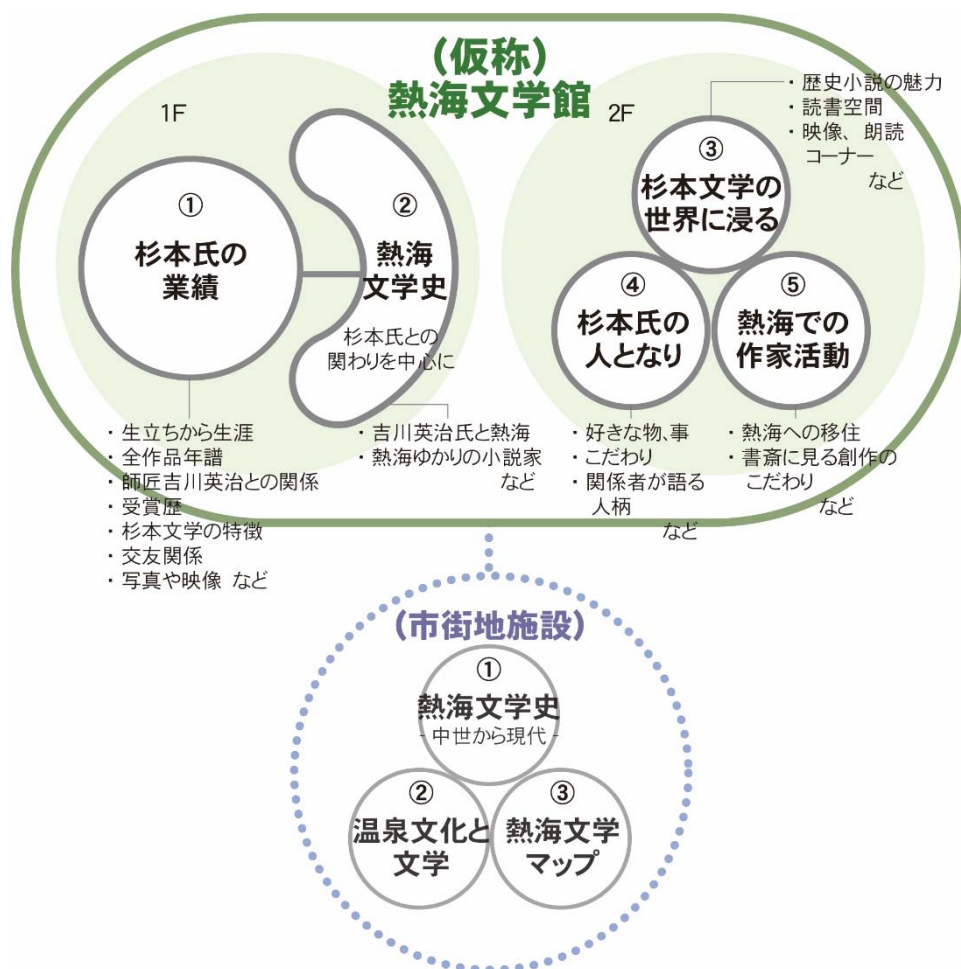
C 別荘所有者・熱海観光ヘビーリピーター・長期滞在観光客



4. 展示テーマ案

これまで検討してきた施設構成と役割を踏まえて、新設する(仮称)熱海文学館と市街地施設について現状想定される展示テーマ案を以下に示します。今後の調査研究の進捗、事業内容の明確化に合わせて再検討していく必要があります。

【(仮称)熱海文学館と市街地施設の想定展示テーマ案】



5. 運営方法

本施設の運営方法については、市直営または管理業務委託などが想定されますが、現在は検討中であり、適切な方法を検討する必要があります。

Ⅶ 基本計画に向けて

1. 基本計画の検討課題

次年度の基本計画時に必要な検討課題を以下にまとめました。

(1) 杉本氏の業績と作品研究を行う

杉本氏の作家活動と作品の特徴、ゆかりの方々との関りなど、杉本氏の業績を検証する文学館として、その研究の端緒に取り組む必要があります。

あわせて、杉本氏とその作品の魅力を伝えるために最も適切な題材が何かを精査し、その展示化に向けて検討を行う必要があります。

(2) 文学館としての具体的な在り方を明らかにする

市内ゆかりの文学者について紹介する(仮称)熱海文学館の具体的な在り方を検討する必要があります。文学者や文学の取り扱い範囲や館の事業内容など、熱海市の状況と長期計画を視野に入れた基本的な方針を精査する必要があります。

(3) 旧杉本邸の一般公開化に向けた課題を精査する

設計時の用途変更に向けた手続きや、バリアフリーの人的対応の実際のあり方、バックヤードの必要面積の精査など、ハード的な課題のほか、露出展示の資料紛失対策なども視野に入れた検討が必要となります。

(4) 収蔵場所の方針をまとめる

収蔵スペースの位置や整備内容は、事業全体に関わるため、候補施設のメリット・デメリットをさらに精査したうえで、要件の優先順位と実現性を鑑み、収蔵スペースをどこにするか方針をまとめる必要があります。

(5) 運営方法の検討

本施設の運営方法については、市直営または管理業務委託などが想定されます。今後の施設機能や事業方針の方向性、事業内容などの決定に合わせて、適切な方法を検討する必要があります。

(6) 観光施策との連動を検討する

今回明らかになった重要な事項に、本事業は市のまちづくりや観光施策と連動して考えなければ持続可能な施設となり得ないということがあります。

杉本氏の顕彰と旧杉本邸の整備が本来事業であることは変わらないものの、熱海市のまちづくりが目指す方向と軸をあわせ、連動していくための方針を検討する必要があります。

(7) 市街地施設設置の可否及び実現性を検討する

市内にたくさんの入り口を設けられるかどうか、本事業の成否を分けると想定されることから、本事業と連動しながら別軸で、市街地施設設置の実現性を検討する必要があります。必要性の有無、どのような役割を担うか、どこに設けるか、課題があるとすればどのように解消していくか、具体的に検討したうえで、庁内各部署との調整を図る必要があります。また、市街地施設設置の予算措置をどうするか並行して検討する必要があります。

2. 事業スケジュール

開館までの想定事業スケジュールを以下に示しました。

年度 月度	2019(R1)			2020(R2)年度			2021(R3)年度			2022(R4)年度			2023(R5)年度															
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
基幹工程	基本構想・基本計画			基本・実施設計			工事制作施工			OPEN																		
基本構想 基本計画	基本構想	基本計画																										
建築工程				建築 基本・実施設計 業務用途変更 現況調査・法適合 手続き含む						建築改修工事																		
展示工程				展示 基本・実施 設計業務						展示制作施工 業務																		

資料編

(仮称)熱海文学館設立準備委員会 委員名簿

有識者委員

委員長 紅野 謙介 (日本大学文理学部長)

副委員長 原 祐子 (元日本近代文学館職員)

内川 隆志 (國學院大学教授)

塩見 寛 (名城大学理工学部講師)

矢代 勝也 (MOA 美術館学芸部長)

一般委員

小松 久男 (熱海商工会議所専務理事)

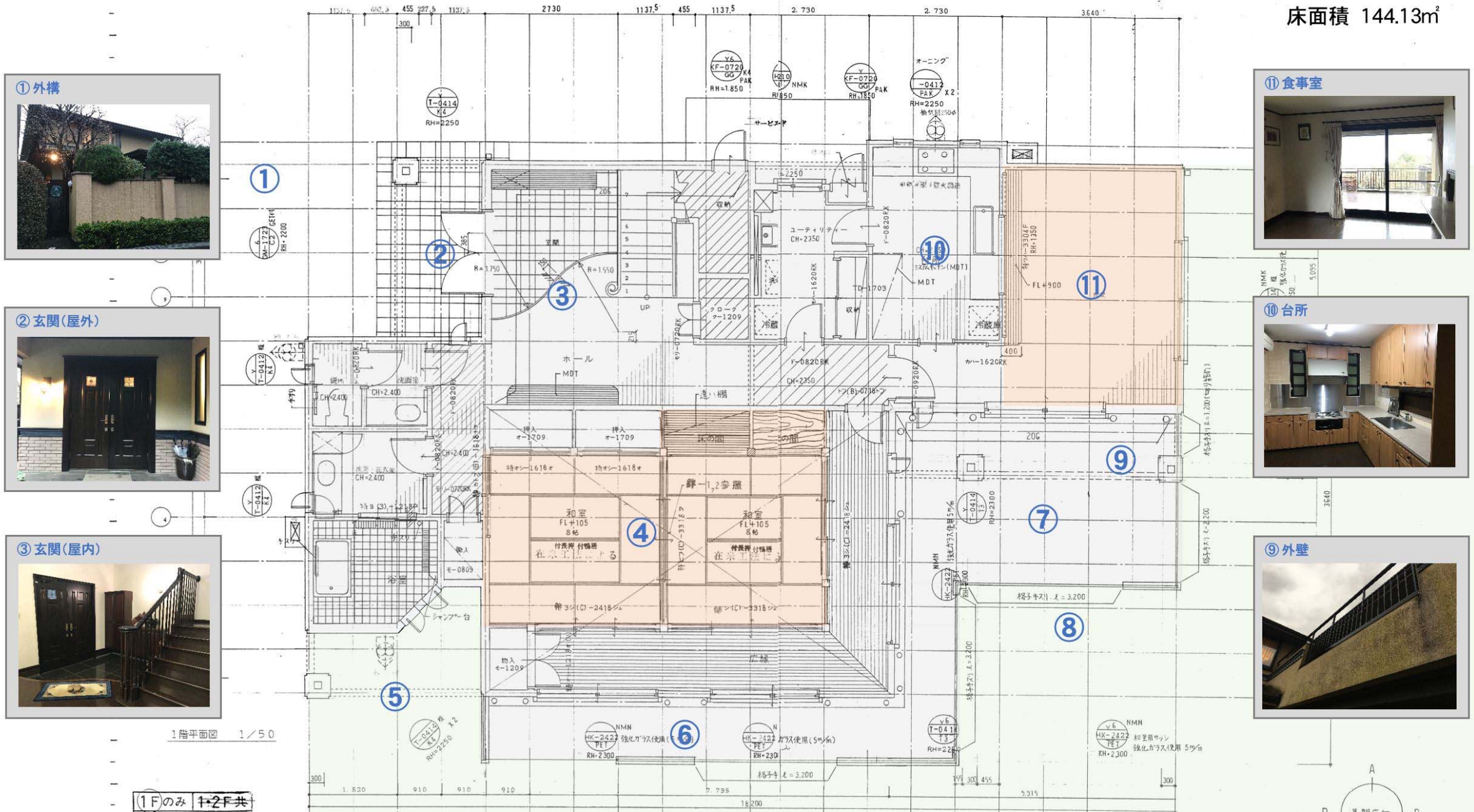
井戸 真弓 (熱海市観光協会職員)

(仮称)熱海文学館設立準備委員会 開催経過

回数	日程	会場	主な検討内容
第1回	令和元年7月8日	旧杉本邸応接室	<ul style="list-style-type: none">・旧杉本邸利用の課題の検討・収蔵資料の検討・熱海市ゆかりの文学に関する検討・本施設の方向性の検討
第2回	令和元年10月21日	起雲閣ギャラリー	<ul style="list-style-type: none">・建築的課題の検討・保存環境的な課題の検討・全体計画の検討
第3回	令和2年2月17日	熱海市中心公民館 第1会議室	<ul style="list-style-type: none">・基本構想書(案)の検討

展示スペースとして想定 管理・バックヤードスペースとして想定 外構部

床面積 144.13m²



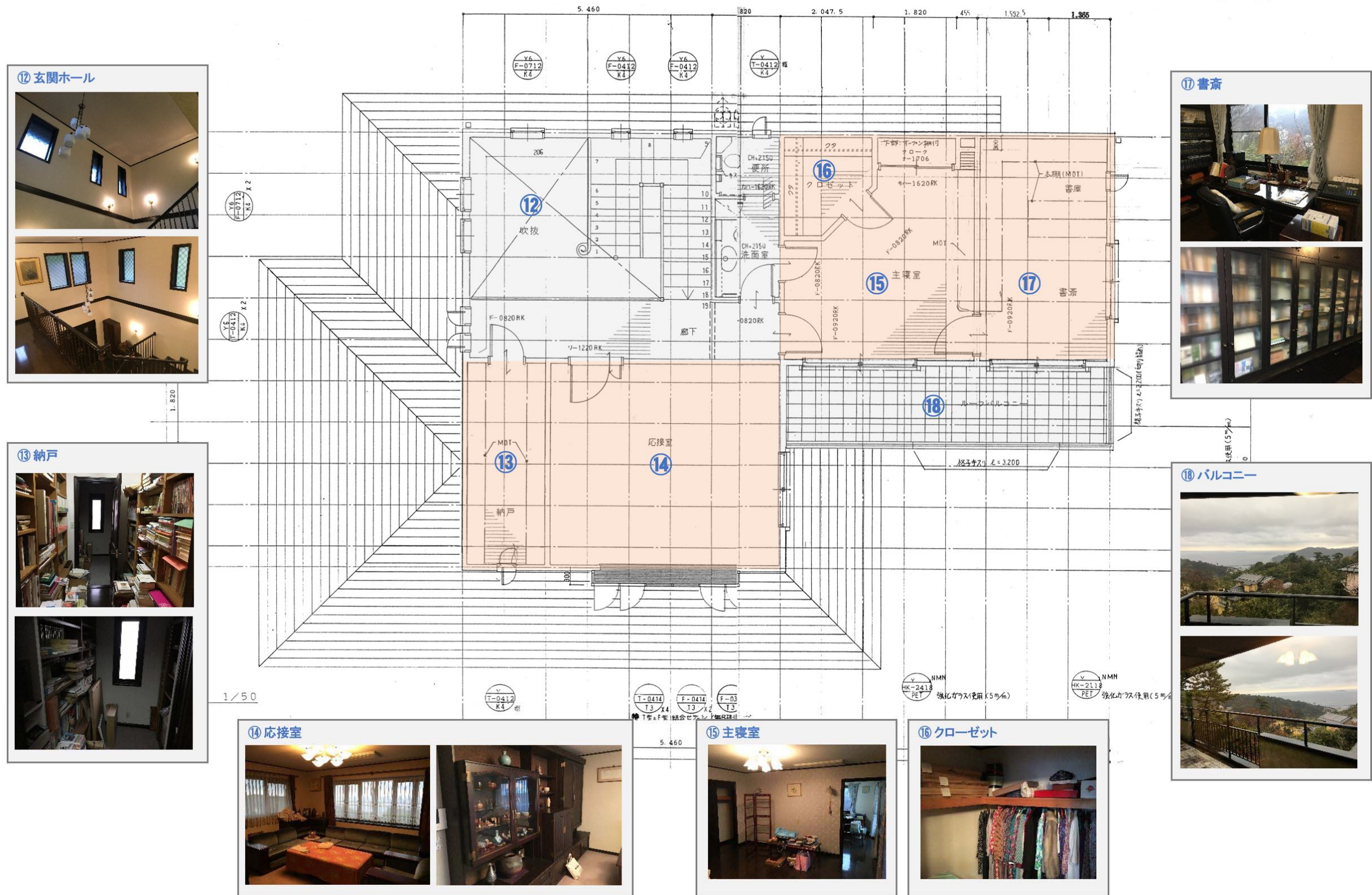
1階平面図 1/50

(1F)のみ 1+2F共



展示スペースとして想定 管理・バックヤードスペースとして想定

床面積 93.82㎡



旧杉本邸収蔵資料 ①整理済み資料 4.書簡差出人詳細リスト

差出人名	職業	備考
朝丘雪路	女優	画家伊東深水の子
浅田晃彦	小説家	
朝吹登水子	随筆家	フランス文学者
阿部英雄	財界人	富士経済グループ
阿部光子	作家	キリスト教伝道者 本名:山室光
あまんきみこ	児童文学作家	本名:阿萬紀美子
網野 菊	作家	
荒 正人	文芸評論家	
嵐 圭史	俳優	前進座 本名:寺田勝之
粟屋 充	装幀家・作家	
安西篤子	小説家	
池波正太郎	時代小説作家	
池内淳子	女優	
飯沢 匡	劇作家・演出家	
石田修大	新聞記者・作家	俳人石田波郷の子
磯貝勝太郎	文芸評論家	
伊藤桂一	小説家・詩人	杉本苑子の作家初期からの友人
犬養 孝	日本文学者	万葉文学
井上ひさし	小説家・劇作家	
井上由比		
入江泰吉	写真家	共著あり
岩橋邦枝	小説家	猫仲間 本名:根本邦枝
巖谷大四	文芸評論家	作家巖谷小波の子
上田正昭	歴史学者	
生方たつゑ	歌人	
梅原 猛	哲学者	
江國 滋	園芸評論家・エッセイスト	俳号:滋酔郎
江藤 淳	文芸評論家	
円地文子	小説家	
大河内昭爾	文芸評論家	
大庭みな子	小説家	
大原富枝	小説家	
尾崎秀樹	文芸評論家	
小山内美江子	脚本家	
小田切秀雄	文芸評論家	
海音寺潮五郎	小説家	
加藤芳郎	漫画家	小学校の同級生
上條恒彦	俳優	
神谷次郎	文芸評論家	
川口松太郎	小説家・劇作家	
川田 幹	木版画家	
北川智繪		
北原亞以子	小説家	
木村荘十	作家	
来水明子	作家	本名:胡桃明子
胡桃沢耕史	作家	本名:清水正二郎
小池邦夫	絵手紙作家	
河野多恵子	小説家	
小島政二郎	小説家・随筆家	俳号:燕子楼
五大路子	女優	
こたきこなみ	詩人	本名:武藤小浪
児玉 清	俳優・司会者・作家	本名:北川清
早乙女 貢	歴史小説家	本名:鐘ヶ江秀吉
佐伯彰一	文芸評論家	アメリカ文学者
笹津治子		
佐多稲子	小説家	
佐多芳郎	挿絵画家	
佐藤睦子		
沢村貞子	女優	
斯波四郎	作家	本名:柴田四郎
司馬遼太郎	小説家	
芝木好子	小説家	
清水妙子		
城 夏子	作家	本名:福島静

差出人名	職業	備考
進士慶幹	日本史学者	
杉村春子	女優	
杉本章子	小説家	
杉本健吉	洋画家・イラストレーター	
杉森久英	小説家	
関根祥六	能楽師	シテ方親世流
曾野綾子	作家	作家三浦朱門の妻
鷹羽狩行	俳人	本名:高橋行雄
高橋英子		
高柳光寿	歴史学者	
竹西寛子	小説家	
田中阿里子	作家	作家邦光史郎の妻
津村節子	小説家	作家吉村昭の妻
戸板康二	演劇評論家・推理作家	
堂 昌一	挿絵画家	本名:堂前証一
豊田 穰	小説家	
直木孝次郎	歴史学者	
永井路子	歴史小説家	本名:黒板擴子
中川宗淵	僧侶	臨済宗 本名:中川基
中沢けい	小説家	本名:本田恵美子
中西悟堂	野鳥研究者・歌人・詩人	日本野鳥の会 本名:中西富嗣
中西 進	比較文学者・万葉学者	
中村 稔	詩人・弁護士	
中平まみ	小説家	本名:中平眞實
中村雀右衛門	歌舞伎役者	4代目
中山義秀	小説家	
夏樹静子	小説家	本名:出光静子
奈良本辰也	歴史学者	
縄田一男	文芸評論家	
南條範夫	小説家	本名:古賀英正
西川右近	日本舞踊家	西川流総帥
西村 滋	作家	
西山松之助	歴史学者	
新田次郎	小説家	サンデー毎日入選同期
二宮さよ子	女優	
丹羽文雄	小説家	
野上弥生子	小説家	英文学者野上豊一郎の妻
野口達三		
野村万作	能楽師	狂言方和泉流
野村万之丞	能楽師	狂言方和泉流 五世
萩原葉子	小説家・エッセイスト	詩人萩原朔太郎の子
林 真理子	小説家	
林屋辰三郎	歴史学者	
原田維夫	版画家・挿絵画家	
原田康子	小説家	
坂東三津五郎	歌舞伎役者	9代目
東山魁夷	画家	
平林たい子	小説家	
深井 国	画家・イラストレーター	本名:深井国松
深町稜子	女優	前進座
藤岡琢也	俳優	
藤島亥治郎	建築史家	
藤島博文	日本画家	
牧 進	日本画家	
松島榮一	歴史学者	
松山善三	映画監督	
真鍋元之	小説家	
三浦哲郎	小説家	
三浦朱門	作家	作家の曾野綾子は妻
三国一朗	放送タレント・エッセイスト	
御正 伸	洋画家	
水上 勉	小説家	
三戸岡道夫	作家・実業家	本名:大貫満雄
皆川博子	小説家	
宮尾登美子	小説家	

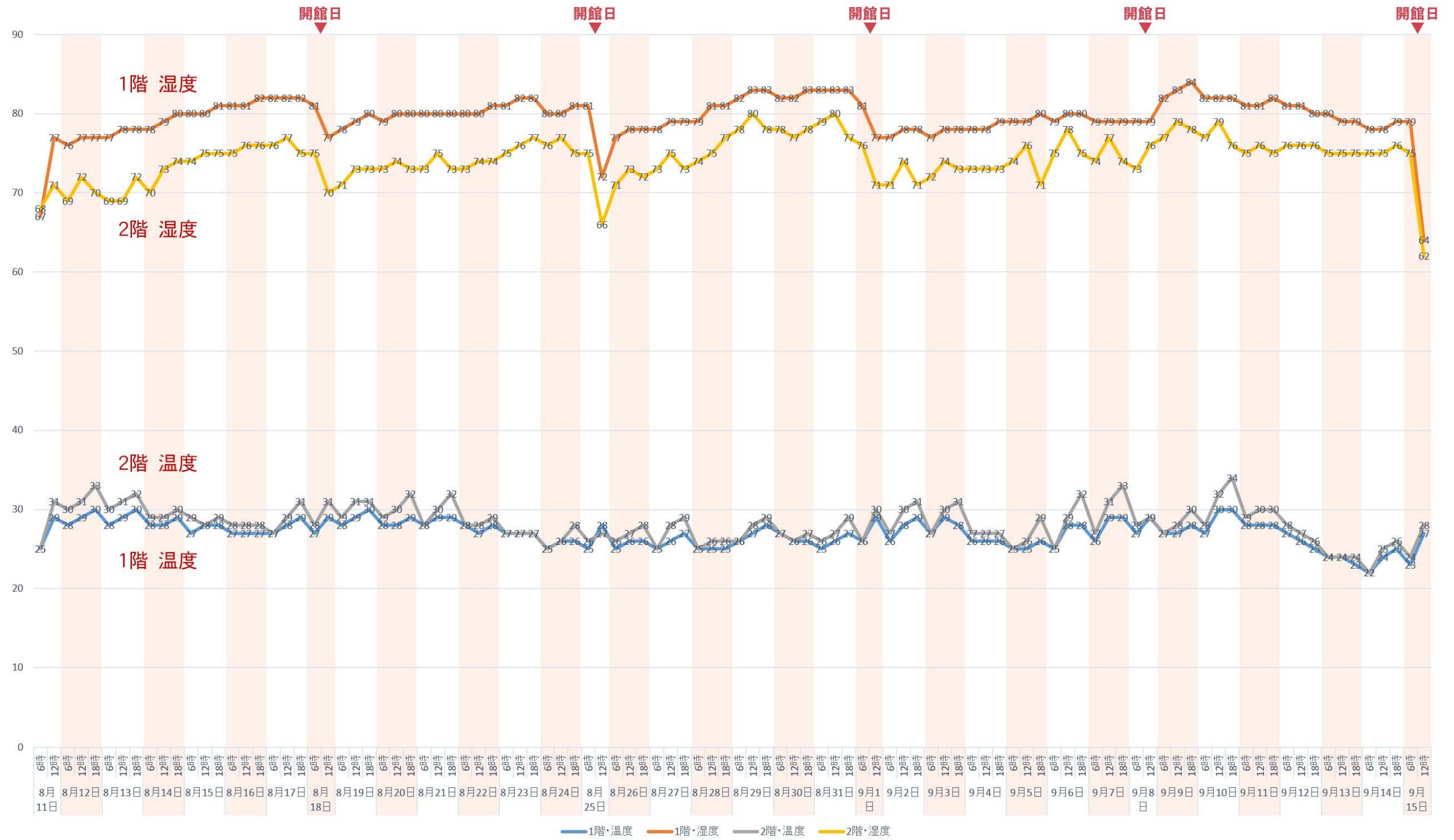
差出人名	職業	備考
武蔵野次郎	文芸評論家	
村上元三	小説家	
森 銑三	歴史学者	
森繁久彌	俳優	
森田たま	随筆家	
森村 桂	作家	
八木義徳	小説家	
八尋舜右	歴史小説家・詩人	
山折哲雄	宗教学者	
山川静夫	アナウンサー・歌舞伎評論家	NHK
山口 崇	俳優	
山崎澄子		
山田紅衣		
山田太一	脚本家・小説家	
山根基世	アナウンサー	NHK
山藤章二	イラストレーター	
山村正夫	推理作家	
山本富士子	女優	
吉川英治	小説家	杉本苑子の師
吉川文子		作家吉川英治の妻
吉田多最	日本画家	
吉田行理	日本画家	武者絵
吉村 昭	小説家	作家津村節子の夫
吉屋信子	小説家	
吉行淳之介	小説家	
若柳吉金吾	日本舞踊家	
和田芳恵	小説家・文学研究者	
渡辺 保	歌舞伎研究者	本名:渡辺邦夫

5.掛け軸詳細リスト

番号	箱あり	掛軸名
1	○	福沢諭吉 書簡
2	○	南光坊天海
3	○	靈元天皇 御宸翰
4	○	倉田百三 邦枝完二宛
5	○	曲亭馬琴 箱根詩
6	○	村井貞勝 消息
7	○	尾崎紅葉 俳句
8	○	毛利輝元 書状
9	○	頼山陽 鳩居堂宛書簡
10	○	池田利隆先生
11	○	三尊佛 紺紫金泥
12	○	滝沢馬琴 柳川重信宛消息
13	○	十一面観世音菩薩
14	○	牡丹の絵と賞状(杉本苑子・高一時)の2点
15	○	天人碑
16	○	近藤信尋 明後日云々消息(二階の応接間の掛軸)
17	○	芥川龍之介 句戯画(黒塚や~)
18	○	渡辺華山 画卷(巻物)
19	○	浅草寺国宝観音経(複製)
20	○	川田幹 道祖神(染軸)
21	×	前田純孝(ドラマ夢千代)
22	○	杉本健吉 画 華精

彩苑の温湿度測定記録 (2019.8.11~9.15)

※運用の関係で18時未計測日あり



熱海市教育振興基本計画 後期基本計画(抜粋)

◆計画の策定の趣旨及び対象期間(抜粋)

熱海市の教育は、「しあわせのまちづくり」はぐくむまち ～まちを支えるひとづくり～ を基盤とし、家庭・地域・学校が手を携えながら、新しい時代を切り拓くことのできる心豊かでたくましい人間の育成を目指してきた。

教育委員会では、毎年「教育行政の基本方針と主要施策」を作成し、学校教育の分野では、子どもたちの豊かな感性・確かな学力・健やかな心身の育成を図るため、地域・家庭・学校・幼稚園が連携し、子どもたちが安心して過ごすことのできる教育環境の整備に努めてきた。また、生涯学習の分野でも、いつでも・どこでも・だれでも学ぶことのできる生涯学習の基本に立ち、生涯学習情報の発信とともに各種講座の開催やスポーツの振興、文化財の保護、青少年の健全育成等に取り組んできた。図書館においては、利用者拡大を図り、資料の収集とともにできるだけ多くの情報の提供ができるよう努めてきた。

熱海市教育振興基本計画は、これまでの計画の進捗状況や取り組みを整理したうえで、本市の教育に関する初の総合的な中・長期計画として、平成22年度から平成31年度までの、本市の教育が目指すべき教育の方向性及び目標を明らかにするとともに、目標ごとの具体的施策等を提示し、今日まで取り組んできた。

基本計画で示した施策・事業の進捗状況や成果を踏まえた上で諸課題を把握するとともに、本市の教育を取り巻く諸情勢変化に対応し、それを実現するため、「熱海市教育振興基本計画」を改訂するものである。(以下、略)

◆計画の位置づけ

本計画は、教育基本法第17条第2項の規定に基づく地方公共団体の定める教育振興のための施策に関する基本的計画として位置づけられる。

改訂に当たっては、第四次熱海市総合基本計画をはじめ、国の教育振興基本計画や静岡県教育振興基本計画のほか、教育関連の法制度との整合を図っている。

また、熱海市総合教育会議において「熱海市教育大綱」として位置づけられている。

◆目標ごとの施策と重点事業(抜粋)

【重点事業 市民自らが学べる生涯学習環境づくり】

人材バンクの活用や民間事業者・大学等の高等教育機関との連携を推進し、市民の多様な生涯学習ニーズに応じた生涯学習の機会を提供する。

また、情報の提供や学習相談、生涯学習ボランティアの育成、学習の機会と場の提供等により、市民の主体的な生涯学習活動を支援する。

【重点目標 文化財や伝統文化等の保存・継承】

個性豊かな熱海の歴史、文化環境を形成する重厚な資産である文化財や伝統文化・芸能を次世代に継承していくとともに、保存活用を図る。

熱海市生涯学習推進大綱(抜粋)

◆大綱の位置づけ(平成23年3月改定に際して)

平成2年の策定の際には、新熱海市総合計画に基づく教育全般にわたる大綱としてきたが、改訂に際しては、第四次熱海市総合計画を踏まえるとともに、総合計画の部門別計画である熱海市振興基本計画を策定したことを受け、本大綱を家庭教育・社会教育・スポーツ活動・文化財に関することを中心とし、教育振興基本計画の実施計画とするものである。

◆計画の期間

平成23年度から平成32年度まで。

◆実施計画

○生涯学習の振興～豊かな心をはぐくみ、学びを支えるまち～

- 生涯学習活動において、学んだ成果を社会に還元する循環型生涯学習社会づくりに向けて、人材バンクへの登録と活用のPRに努め、生涯学習ボランティアの活動の場を拡大する。
- 誰もが利用しやすいように施設のバリアフリー化に努め、ユニバーサルデザインによる施設整備を推進する。

○開かれた図書館

- 貴重な図書館資料の活用として、郷土資料・行政資料・地域に関係が深い事項(温泉・観光等)については特に留意し、収集、整理、保存に努め、まちづくりや熱海を見つめ直す機会等に利用できるようにする。
- 貴重な文献や資料(和綴本・古絵図等)を燻蒸・修復し、電算化を進め、よい状態で保存するとともに研究者等の閲覧に供するよう整理する。

*上記の二事項は、現在生涯学習課へ所管変更されています。

○文化をはぐくむ誇れるまちづくり

- 市民に文化財の重要性と歴史的価値等を理解してもらうとともに、その保護に努める。
- インターネット等を使った情報提供を行うとともに、文化財を愛する心をはぐくむ意識啓発を図る。
- 地域の文化活動を担う個人や団体を支援していく。

(2) 主な観光イベントの入込状況

				単位:人											
区分	場所	初年度	日程	平成30年	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年	平成19年
尾崎紅葉祭	お宮の松	昭和18年	1/17	140	550	250	300	250	230	270	130	300	300	200	100
熱海梅園梅まつり	熱海梅園	昭和20年	1/6~3/4	194,209	193,345	190,158	206,645	147,578	179,919	187,318	196,139	239,607	503,650	534,000	561,500
あたま桜系川桜まつり	系川遊歩道	平成23年	1/20~2/11	47,237	35,627	30,152	45,594	未発表	未発表	未発表	未発表				
献湯祭	湯前神社		2/10	30	30	30	40	40	未発表	200	200	250	150	200	100
初島漁師の井合戦	初島	平成24年	2/3~3/16	未発表	未発表	未発表	未発表	未発表	2,234						
坪内逍遙忌記念祭	起雲閣	昭和47年	2/28	120	70	75	80	60	120	130	120	130	150	120	150
わかめまつり	長浜海浜公園	昭和61年	2/24~2/25	8,096	9,600	11,000	13,600	13,500	13,500	13,180	11,000	3,500	6,000	5,000	5,000
伊豆山神社例大祭	伊豆山神社		4/15	未発表	未発表	未発表	11,000	11,000	11,000	11,000	神事のみ	11,000	11,000	10,000	13,000
熱海城桜まつり	熱海城	昭和58年	3/24~4/8	30,000	30,000	50,000	30,000	30,000	未発表	30,000	中止	30,000	25,000	40,000	7,804
姫の沢公園花まつり	姫の沢公園	昭和50年	5/3~5/6	24,574	41,000	76,000	55,000	52,000	62,300	34,000	39,800	61,500	74,100		
熱海をどり	芸妓見番	平成2年	4/28~4/29	800	700	700	900	1,000	1,117	1,000	中止	1,118	1,320	1,244	1,310
初島とこ天祭り	初島	昭和51年	5/1~5/5	11,103	13,128	10,808	11,055	9,769	10,419	7,412	7,358	12,507	9,989	8,430	9,029
春のあたまビール祭り	清観水公園	平成26年	5/3~5/4	44,000	34,000	25,000	20,000	8,500							
湯かけまつり	泉公園		5/26	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	2,500	14,000	15,000	18,000	19,000	19,000	20,000
ほたる観賞のタベ	熱海梅園	平成6年	6/1~6/10	3,633	4,343	5,241	4,282	3,851	4,336	4,853	2,800	3,000	2,700	3,000	3,500
ATAMIジャカラダフェスティバル	ジャカラダ遊歩道	平成28年	6/9~6/24	20,925	21,888	9,940									
宮川マス釣り大会	下多賀宮川		7/8	500	500	500	400	450	500	340	350	350	350	350	500
こがし祭り山車コンクール	お宮の松前	昭和44年	7/15~7/16	74,000	79,000	66,000	50,500	68,000	71,000	75,000	69,000	69,000	70,500	70,000	75,000
熱海で遊ぼう!ゆかたで遊ぼう!	清観水公園	平成13年	7/27~8/30	19,600	21,100	20,300	17,600	17,700	17,000	17,650	15,600	15,100	16,600	13,700	19,100
マリンフェスタ・アタミ	熱海湾	平成8年	7/22	584	734	763	885	1,072	842	1,061	774	584	572	653	649
網代ベイフェスティバル	網代港		7/21	2,500	2,500	3,000	3,000	3,000	3,000	4,000	4,000	5,000	2,500	3,000	2,000
あたまビール祭り	清観水公園	昭和60年	8/1~8/4	11,000	6,500	12,000	12,000	10,000	10,000	8,300	12,000	12,000	10,000	10,000	6,000
新能	MOAムア広場	昭和60年					2,291	2,514	2,567	2,300	中止	3,156	2,142	3,100	2,741
新能	サン・ビーチ	平成28年	9/22	2,050	3,600	3,974									
初島・熱海間団体競泳	サン・ビーチ	昭和23年	8/4	2,000	1,900	1,900	1,900	1,900	2,100	2,100	1,800	2,000	2,000	2,000	2,000
網代ふるさとまつり	大綱公園		8/14~8/15	8,000	7,000	10,000	10,000	10,000	10,000	12,000	12,000	10,000	10,000	15,000	5,000
伊豆山さざえまつり	伊豆山海岸	昭和45年	8/20~8/22	1,550	1,900	1,500	1,500	2,000	2,000	2,500	2,500	3,000	5,000	6,000	6,000
アロハフェスティバル	清観水公園	平成13年	6/2~6/3 7/21~7/22	10,000	7,000	8,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	16,000	16,000	14,900	14,500
伊豆山仲秋の名月歌会	伊豆山神社	昭和27年	9/15	未発表	未発表	270	300	200	100	100	250	150	150	150	150
献湯祭(湯まつり)	湯前神社	昭和39年	10/6~10/7	2,200	2,250	1,950	2,550	2,050	2,700	2,800	3,300	2,800	2,800	2,200	2,600
湯汲み道中(市内行列)	熱海駅前~湯前神社														
海辺のあたまマルシェ	銀座通り商店街	平成25年	奇数月	未発表	未発表	未発表	18,882	28,835	3,500						
熱海梅園もみじまつり	熱海梅園	昭和61年	11/17~12/9	57,114	53,229	42,660	40,700	41,349	39,898	26,233	28,000	31,000	31,000		
網代ひものまつり	大綱公園・長浜海浜公園		11/7・11/12月 各2回 計4回	23,096	21,000	21,000	17,000	20,000	20,500	20,000	14,500	12,000	4,500	5,000	5,000
花火大会	熱海湾他		21回	417,988	413,400	359,000	351,500	334,869	318,702	310,465	308,100	285,850	303,221	288,248	349,812
湯らっくすマラソン大会	ビーチライン	昭和60年								5,909	中止	6,651	8,000	6,600	6,500
伊豆海河原温泉まつり	千歳川	昭和31年										3,500	3,500	3,000	3,000
伊豆半島花&てくもぐウォーク	熱海市内	平成16年								140	中止	725	955	426	746
水上バイク全日本選手権	長浜海水浴場	平成20年											2,000	2,000	
ふれあい産業まつり	清観水公園	平成15年							39,000	30,000	33,000	28,000	25,000	14,000	50,000
春クルーズ	熱海湾									472	577	573	448		
ビーチバレー選手権大会	サン・ビーチ														500
初川納涼市	初川遊歩道	昭和62年									30,000	25,500	30,000	30,000	30,000
熱海湾ファンタスティッククルーズ	熱海湾								1,142	1,410	1,421	1,087	1,551	1,771	2,853
熱海パフォーマンスフェスティバル	系川遊歩道	昭和63年												8,500	8,000
熱海国際交流フェスタ	清観水公園等	平成15年													7,500
湯めまをとり「華の舞」秋季特別公演	熱海芸妓見番	平成17年								342	330	289	408	763	988

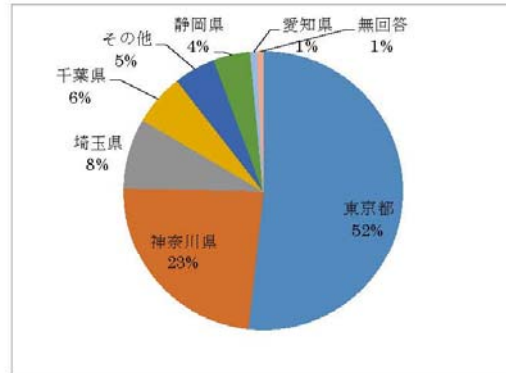
※ 日程・回数は平成30年度の実績を記載しております。

※ 1年間に開催される、文学・歴史関連や集客力の高いイベントとの連携を十分に検討する必要がある。

花火大会 市内16 網代1 多賀1 初島1 伊豆山1 泉1

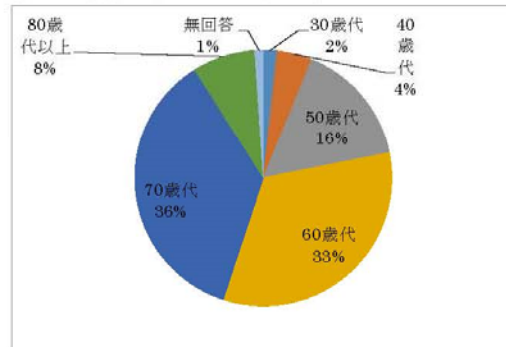
Ⅲ 調査結果

住所 (n=750)



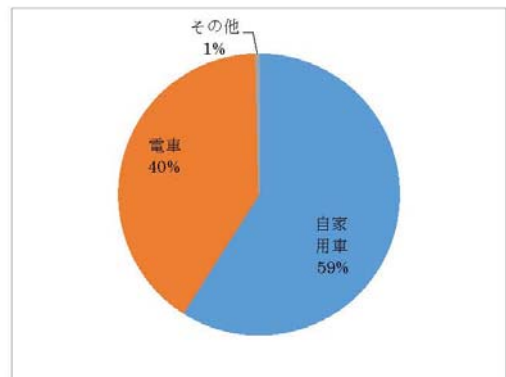
- 「東京都」が 52%と最も多く、次いで「神奈川県」が 23%、「埼玉県」が 8%となっている。
- 首都圏の方が全体の約 9 割を占めている。

問1. 年齢はおいくつですか。(n=750)



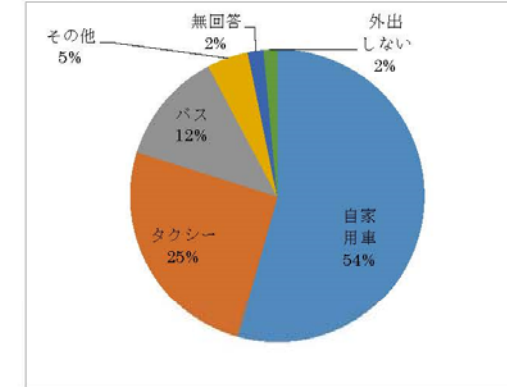
- 「70 歳代」が 36%と最も多く、次いで「60 歳代」が 33%となっている。
- 60 歳以上の方が全体の約 8 割を占めており、40 歳代以下は 1 割も満たしていない。

問2. 熱海を訪れる主な交通手段は何ですか。(n=750)
(自家用車・電車・その他)



- 「自家用車」が 59%と最も多く、次いで「電車」が 40%となっている。

問3. 熱海を訪れたあとの主な交通手段は何ですか。(n=750)
(自家用車・タクシー・バス・外出しない・その他)

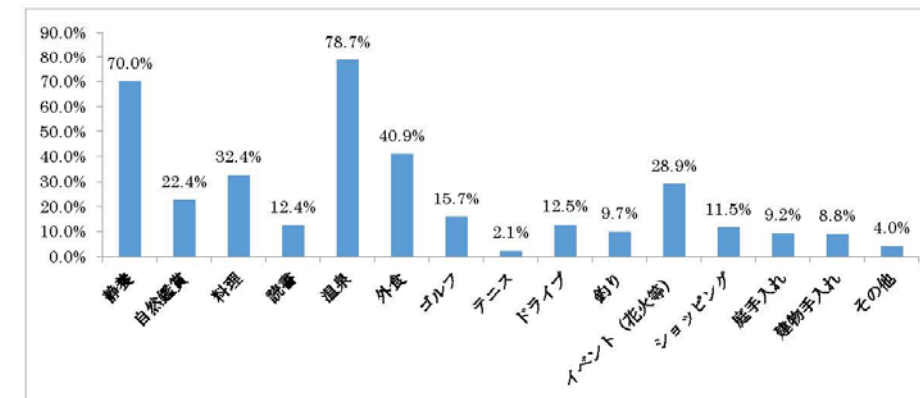


- 「自家用車」が 54%と最も多く、次いで「タクシー」が 25%、「バス」が 12%となっている。

- その他意見
・徒歩
・電車
・バイク 他

問4. 熱海滞在中の主な過ごし方について【複数回答】(n=750)

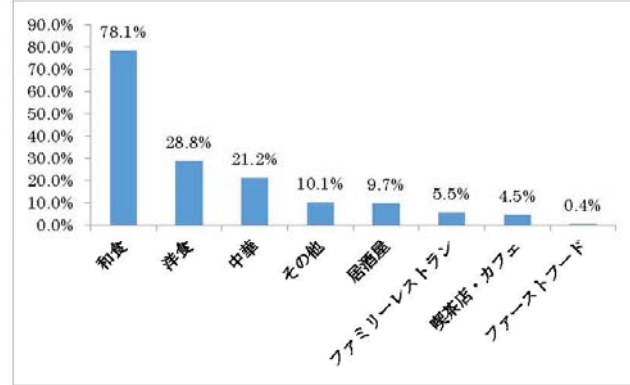
(静養・自然鑑賞・地元の食材で料理を楽しむ・読書・温泉・外食・ゴルフ・テニス・ドライブ・釣り・お祭りやイベントを楽しむ・ショッピング・庭の手入れ・建物の手入れ・その他)



- 過ごし方は「温泉」が 78%と最も多く、次いで「静養」が 70%となっている。また、「外食」40%、「地元の食材で料理を楽しむ」も 32%となっている。
- 花火等のイベントも 28%となっており、来訪を促す要素の一つとなっている。

- その他意見
・ウォーキング
・マリンスポーツ 他
(ダイビング等)

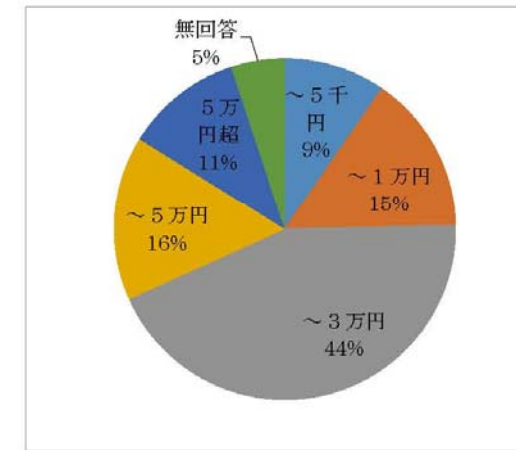
問6. 滞在中によく行く飲食店について(市内外問わず)【複数回答】(n=750)



●「和食」が78%と最も多く、次いで「洋食」28%、「中華」21%となっている。

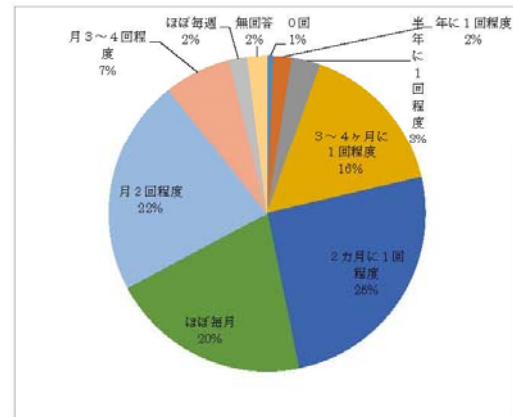
●その他意見
・市内ホテル
・市外モール
・焼肉 他

問9. 滞在中に市内で使う費用(食事・買物・土産など)について(n=750)



●「3万円以下」が44%と最も多く、次いで「5万円以下」が16%となっている。一方、「5万円超」についても11%いる。

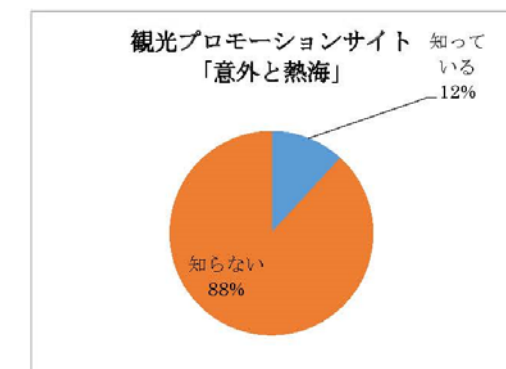
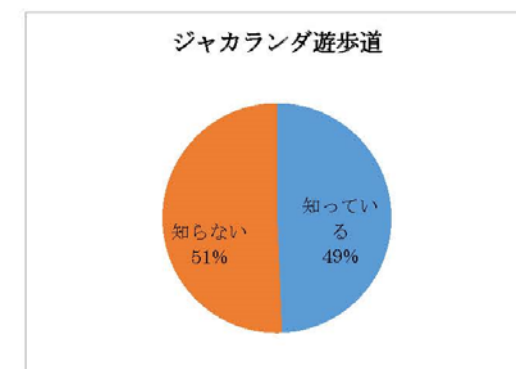
問7. 1年間の来訪回数について(n=750)



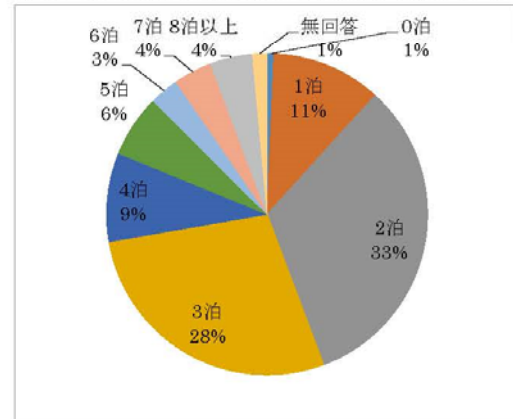
●「2か月」に1回程度が最も多く25%、次いで「月2回程度」が22%、「ほぼ毎月」が20%となっている。

●1年間の来訪回数6回以上の方が全体の約7割を占めている。

問10. 認知度について(n=750)

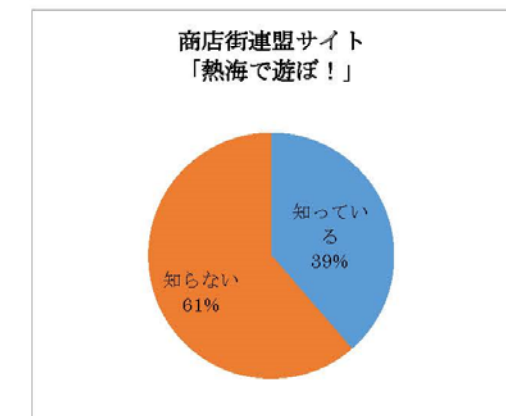
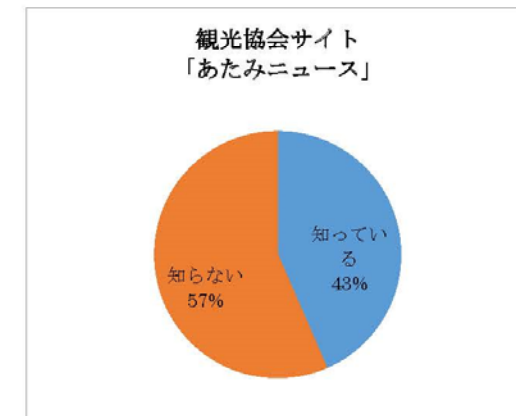


問8. 1回あたりの滞在日数について(n=750)



●「2泊」の方が33%と最も多く、ついで「3泊」が28%、「1泊」が11%となっている。

●6泊以上(1週間以上の滞在)の方も約1割いる。



11. 自由意見について(主なものを掲載)

【熱海駅】

- 駅ビルで食材・惣菜が購入できるので楽しみに待っている。
- 改札正面にタクシー乗り場がないのが不便。
- トイレが少ないために時間帯により列が長くなり、電車の時刻に間に合わない。
- バス乗り場が遠く不自由。
- 新駅舎で色々なイベントを行ってほしい。
- 熱海駅前に気軽に座れるベンチや待合所などを作ってほしい。
- 駅前が良くなり、明るくなった

【イベント】

- ジャカランダフェスティバルは毎年続けて欲しい。
- 多賀の海岸のイベントが楽しみ。
- 最近、若い人たちを見かけることが多く、また、街中もきれいになり、うれしい。さらに人が集まるように PR やイベントに頑張ってもらいたい。
- 春の花火大会を増やして欲しい。
- 花火大会が土曜日開催されれば、もっと訪れると思う。
- 花火大会は時間的にも丁度よく、楽しんでいる。

【飲食店】

- 食事、レストラン大変おいしい。
- 安くて美味しい店が少ない。値段の割に満足できる店があまりない。
- 網代には地魚を使ったお店があり、他店に比べ断トツでうまい。
- 駅前商店街が夕方に閉まり、観光地と思えない。食事処も一部しかやっていない。
- 熱海の商店・飲食店はおもてなしの気持ちに欠け、商売っ気がない。

【施設】

- 公園がとてもきれいになっていたので、ゆっくりとベンチに座りジャカランダのきれいな花を眺めて帰った。
- 子供の遊ぶ場所がない。夏は海・プールがあるが、冬は梅まつり位しかない。
- 映画館が欲しい。旧作でも小さな映画館(町の中にある映画館を修復 OK です)
- 市内駐車場が少なすぎて、つい市外の方へ行くことになる。市内に美味しいお店がたくさんあるのに。
- ペット可能な施設を増やして欲しい。
- ジャカランダの樹を増やして、熱海の PR にして欲しい。
- 春の梅、初夏のジャカランダ、夏のディゴも夏らしくて良い。花いっぱい熱海にして欲しい。
- プール・図書館が充実していれば別荘税も高くないと思う。

【景観】

- 街に活気が戻ってきたと思うが、シャッターを閉めた建物がなくなれば、もっと美しい街になると思う。
- 街角にベンチがあると気軽に休憩できる。街の美観、イメージアップにつながると思う。
- 海岸の建設途中で放置されたマンションを何とかしてください。
- 廃業したホテルなどの空き地が美観を損ねている

【交通】

- ここ 10 年位で道路が整備され、スムーズに行けるようになった。
- 国道 135 号線の渋滞状況がわかる手段があるとよいと思う。
- 路線バスがない所は街中と結ぶ小型バスを走らせてはどうか。
- 路線バスに電子マネーを導入してもらいたい。
- 初島に行く船賃が高いので、気軽に遊びに行きにくい。

【生活環境】

- 家具の店がなく不自由。
- スズメバチやイノシシの対策、助成に力を入れて欲しい。
- 外食ばかりは飽きるので食材を求めたい。スーパーが徒歩圏にあることを望む。
- 熱海は宿泊客相手の町で別荘所有者には便利に出来ていない。新しい熱海駅にはぜひ生活用品、普通の食材等スーパーを。駅で必要な買物等をして別荘に行けるようにして欲しい。
- 観光客には 1~2 日の滞在であれば満足するかもしれない。別荘では普段の買物も大切。(特に食料品)満足する店がない。新しくなる駅に成城石井が入るとか。期待したい。海外のように宿泊しなくても朝食だけ食べられるビュッフェ形式のホテルがあったら便利だと思う。
- 市内の道路整備に力を入れて欲しい。道幅狭く自動車の通行が不便。
- 歩道のコンクリートに段差が多く大変歩きにくい。

【行政】

- 熱海に永住しようと思うが、高齢者対策に不安がある。
- この種のアンケートや告知、情報が少なすぎる。もっと情報を発信すべき。
- インターネット、スマホが使えないので、この冊子はありがたい。
- 別荘税は高いが、高い分サービスが伴っていない。
- 観光地の整備にはとてもお金がかかると思うので、別荘税はともよいアイデアだと思う。
- ふるさと納税制度を利用して別荘等所有税の支払いに充てたい。
- 別荘税をカードで支払うことはできないか。お得感がないのでポイントだけでも貯めたい。
- 別荘族の意見を聞き、市の発展に有効活用するスタンスはとても大切。今後もこのような機会を。

【その他】

- 熱海へ行くと健康を取り戻す。東京から近いので行き来にストレスがない。
- 自宅から交通の便が良いし、温泉があるし、年をとったので遠い旅行は大変なので熱海に行くのが何よりのストレス解消。
- 数年ぶりに熱海を訪れ、以前より活気があるなと思った。イベントも多くあるようなので、ちょくちょく訪れたい。
- さまざまな努力が実を結び、熱海が活気づいてきた。今後は観光客だけでなく、別荘所有者が楽しめるような企画の充実を望む。

(1) 平成28年度～30年度月別 文化施設入館者数（指定管理者制度導入の起雲閣のみ、有料入館者数を記載）

月	※起雲閣（有料入館者数） 定期休館日：水曜日/年末（12/26～30）					澤田政廣記念美術館 定期休館日：月曜日/年末年始（12/28～1/1）					創作の家 定期休館日：火曜日/					旧日向別邸 開館日：土、日曜日、祝日					池田満寿夫記念館 開館日：土、日、月曜日、祝日				
	平成28年度	平成29年度	平成30年度			平成28年度	平成29年度	平成30年度			平成28年度	平成29年度	平成30年度			平成28年度	平成29年度	平成30年度			平成28年度	平成29年度	平成30年度		
	入館者数	入館者数	入館者数	29対比(人)	29対比(%)	入館者数	入館者数	入館者数	29対比(人)	29対比(%)	入館者数	入館者数	入館者数	29対比(人)	29対比(%)	入館者数	入館者数	入館者数	29対比(人)	29対比(%)	入館者数	入館者数	入館者数	29対比(人)	29対比(%)
4月	8,639	8,492	9,950	1,458	17.2%	268	154	202	48	31.2%	246	301	267	△ 34	-11.3%	495	507	548	41	8.1%	101	82	78	△ 4	-4.9%
5月	10,800	10,208	10,936	728	7.1%	289	253	232	△ 21	-8.3%	323	232	301	69	29.7%	659	490	596	106	21.6%	65	79	63	△ 16	-20.3%
6月	9,366	8,929	10,109	1,180	13.2%	544	445	524	79	17.8%	297	236	376	140	59.3%	447	372	506	134	36.0%	72	43	39	△ 4	-9.3%
7月	6,857	7,015	7,272	257	3.7%	218	153	106	△ 47	-30.7%	258	156	163	7	4.5%	490	345	493	148	42.9%	65	72	53	△ 19	-26.4%
8月	6,516	7,631	7,715	84	1.1%	311	246	117	△ 129	-52.4%	221	167	169	2	1.2%	468	378	429	51	13.5%	40	62	26	△ 36	-58.1%
9月	7,949	8,536	9,836	1,300	15.2%	211	209	124	△ 85	-40.7%	294	254	204	△ 50	-19.7%	517	436	581	145	33.3%	48	58	45	△ 13	-22.4%
10月	10,314	10,074	11,211	1,137	11.3%	322	191	281	90	47.1%	293	257	320	63	24.5%	529	418	488	70	16.7%	43	38	49	11	28.9%
11月	10,370	10,965	12,615	1,650	15.0%	959	948	764	△ 184	-19.4%	317	293	215	△ 78	-26.6%	508	522	467	△ 55	-10.5%	57	85	43	△ 42	-49.4%
12月	7,530	7,371	8,269	898	12.2%	540	566	447	△ 119	-21.0%	353	251	228	△ 23	-9.2%	446	432	649	217	50.2%	49	80	42	△ 38	-47.5%
1月	8,554	8,850	9,448	598	6.8%	12,041	7,974	8,791	817	10.2%	243	221	225	4	1.8%	430	406	0			89	42	73	31	73.8%
2月	10,289	10,655	10,532	△ 123	-1.2%	18,867	17,074	18,064	990	5.8%	238	299	219	△ 80	-26.8%	446	456	0			53	57	44	△ 13	-22.8%
3月	12,027	13,745	12,728	△ 1,017	-7.4%	467	2,447	1,831	△ 616	-25.2%	383	315	251	△ 64	-20.3%	527	509	0			89	68	62	△ 6	-8.8%
計	109,211	112,471	120,621	8,150	7.2%	35,037	30,660	31,483	823	2.7%	3,466	2,982	2,938	△ 44	-1.5%	5,962	5,271	4,757	857		771	766	617	△ 149	-19.5%
月	伊豆山郷土資料館 定期休館日：水曜日/年末年始（12/28～1/4）					中山晋平記念館 定期休館日：木曜日					彩苑 開館日：日曜日					凌寒荘 開館日：土、日曜日					双柿舎 開館日：日曜日				
	平成28年度	平成29年度	平成30年度			平成28年度	平成29年度	平成30年度			平成28年度	平成29年度	平成30年度			平成28年度	平成29年度	平成30年度			平成28年度	平成29年度	平成30年度		
	入館者数	入館者数	入館者数	29対比(人)	29対比(%)	入館者数	入館者数	入館者数	29対比(人)	29対比(%)	入館者数	入館者数	入館者数	29対比(人)	29対比(%)	入館者数	入館者数	入館者数	29対比(人)	29対比(%)	入館者数	入館者数	入館者数	29対比(人)	29対比(%)
4月	566	410	532	122	29.8%	781	542	416	△ 126	-23.2%	12	5	10	5	100.0%	103	100	97	△ 3	-3.0%	130	148	152	4	2.7%
5月	559	623	640	17	2.7%	664	568	423	△ 145	-25.5%	2	7	12	5	71.4%	98	77	107	30	39.0%	161	146	80	△ 66	-45.2%
6月	417	488	744	256	52.5%	520	333	322	△ 11	-3.3%	2	137	15	△ 122	-89.1%	101	88	107	19	21.6%	113	76	79	3	3.9%
7月	381	441	382	△ 59	-13.4%	387	339	227	△ 112	-33.0%	5	37	3	△ 34	-91.9%	68	114	42	△ 72	-63.2%	91	107	45	△ 62	-57.9%
8月	449	441	442	1	0.2%	393	303	135	△ 168	-55.4%	6	6	2	△ 4	-66.7%	76	67	59	△ 8	-11.9%	69	55	59	4	7.3%
9月	429	461	378	△ 83	-18.0%	395	342	244	△ 98	-28.7%	3	6	1	△ 5	-83.3%	75	84	58	△ 26	-31.0%	72	77	67	△ 10	-13.0%
10月	432	402	412	10	2.5%	867	422	626	204	48.3%	5	12	10	△ 2	-16.7%	116	67	94	27	40.3%	139	76	126	50	65.8%
11月	494	438	433	△ 5	-1.1%	6,094	5,040	4,727	△ 313	-6.2%	6	5	11	6	120.0%	75	131	102	△ 29	-22.1%	225	205	115	△ 90	-43.9%
12月	436	445	475	30	6.7%	4,171	3,412	2,935	△ 477	-14.0%	7	5	2	△ 3	-60.0%	101	279	95	△ 184	-65.9%	158	251	110	△ 141	-56.2%
1月	578	515	526	11	2.1%	12,645	7,819	9,490	1,671	21.4%	9	3	4	1	33.3%	96	89	83	△ 6	-6.7%	175	150	133	△ 17	-11.3%
2月	400	483	810	327	67.7%	19,636	15,887	17,431	1,544	9.7%	11	15	15	0	0.0%	99	102	84	△ 18	-17.6%	292	256	263	7	2.7%
3月	492	607	498	△ 109	-18.0%	3,632	5,473	3,755	△ 1,718	-31.4%	6	9	8	△ 1	-11.1%	92	119	106	△ 13	-10.9%	177	158	155	△ 3	-1.9%
計	5,633	5,754	6,272	518	9.0%	50,185	40,480	40,731	251	0.6%	74	247	93	△ 154	-62.3%	1,100	1,317	1,034	△ 283	-21.5%	1,802	1,705	1,384	△ 321	-18.8%

生涯学習課資料 より

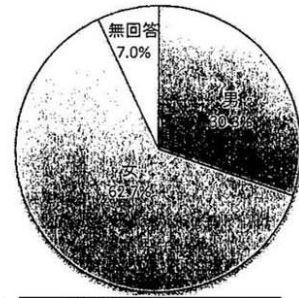
※ 「起雲閣」の昨年度入館者数、12万人という数値は大きい。
ここからの誘客を十分に検討する必要がある。
※ 同様に、「澤田政廣記念美術館」、「中山晋平記念館」、
2022年に改修が終了する「旧日向別邸」とあわせて、核になる文化施設
との連携を検討する必要がある。

II 調査結果

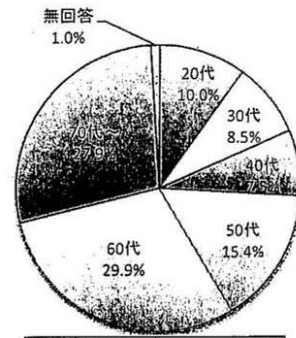
起雲閣

1. 回答者の属性

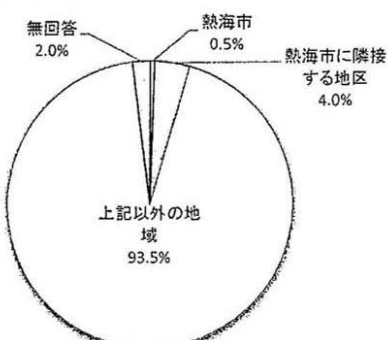
(1) 性別



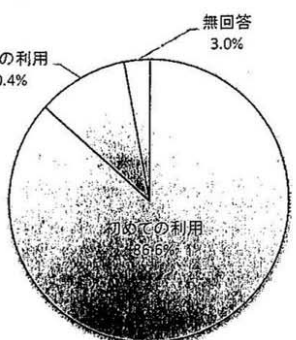
(2) 年代



(3) 居住地区



(4) 利用履歴



※来館目的：施設見学 102人 (51%)、貸出施設利用 0人 (0%)、無回答 98人 (49%)

「来館者満足度調査」2018.12～2019.1 熱海市から外部委託

- 本計画との関係が想定される傾向
- ・来館者の年齢は、60代以上が約6割を占める
- ・市内、近隣からの来訪がほとんどない
- ・リピーターが少ない

起雲閣お客様アンケート集計

	平成30年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(在住)												
市内	0	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0
県内	4	5	1	4	3	2	1	7	1	0	6	1
県外(首都圏)	21	31	29	22	46	29	23	19	27	13	25	34
県外(その他)	10	7	14	4	16	10	7	6	7	12	6	20
計	35	44	45	33	65	41	31	32	35	25	37	55
(性別)												
男	9	12	16	13	29	19	14	13	18	9	14	27
女	28	34	24	23	36	22	20	19	19	18	25	30
計	37	46	40	36	65	41	34	32	37	27	39	57
(年代)												
10代以下	5	7	6	10	21	3	5	3	4	5	3	8
20代	4	10	7	2	16	12	1	2	4	6	6	10
30代	3	5	1	3	6	8	0	1	3	2	3	3
40代	3	3	3	2	9	5	1	1	2	2	3	4
50代	4	7	6	5	7	4	5	6	3	5	6	4
60代	6	8	10	7	3	9	9	7	8	4	5	12
70代以上	10	7	11	6	5	2	13	12	11	4	13	14
計	35	47	44	35	67	43	34	32	35	28	39	55
(宿泊)												
市内宿泊	31	34	27	29	45	31	24	27	30	19	24	44
その他	4	11	12	6	20	8	8	3	4	8	8	11
計	35	45	39	35	65	39	32	30	34	27	32	55
(情報源)												
テレビ・雑誌等	13	16	17	7	21	13	6	10	12	13	16	8
宿泊先	3	1	1	3	1	1	6	1	3	4	3	2
観光案内所	6	5	5	4	2	3	3	3	1	0	2	6
タクシー	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3
湯遊バス	0	2	0	2	3	3	2	0	1	1	1	2
知人・家族	8	13	12	5	17	10	13	11	10	6	6	14
インターネット	7	16	8	16	32	12	6	8	10	6	10	16
その他	0	1	3	1	4	1	2	2	1	0	2	6
計	37	54	46	38	81	42	39	35	38	30	40	57
(来館数)												
初めて	32	41	36	29	59	37	26	26	31	25	29	53
2回以上	3	5	7	6	6	2	7	6	4	3	9	1
計	35	46	43	35	65	39	33	32	35	28	38	54
(感想)												
とても良い	20	29	33	19	49	25	19	22	27	22	25	40
良い	13	15	8	13	14	15	10	8	5	4	13	12
良くない	0	0	1	1	3	0	1	0	1	1	0	0
計	33	44	42	33	66	40	30	30	33	27	38	52
(また来たいか)												
はい	29	36	30	28	57	31	23	28	29	25	35	43
いいえ	3	7	8	6	9	7	7	4	4	2	2	10
計	32	43	38	34	66	38	30	32	33	27	37	53
回答数計	36	47	45	36	67	42	33	32	36	27	40	55

※首都圏とは東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県在住者。

回答率 0.41% 0.44% 0.44% 0.47% 0.83% 0.42% 0.29% 0.25% 0.42% 0.03% 0.37% 0.42%

■集計結果所感からの補足

- ・団体ツアーも多く、首都圏以外からの割合が増えているのは、そのせいではないか
- ・広告宣伝の予算は無い
- ・市民の利用に関しては、見学は少ないが、貸出施設(音楽サロン・ギャラリー・和室など)の利用は多い
- ・10代以下、20代の来訪が多いのは、長期休暇期間
- ・高校生や大学生は友達同士で来訪する姿が多くみられた
- ・市内宿泊は、78%

「熱海市起雲閣指定管理報告書 H30年度」

- 本計画との関係が想定される傾向
- ・ロコミによる来訪動機の高さ
- ・再訪への希望度は高いが複数回の来訪者が少ない

1 計画策定の趣旨

熱海市は豊富な温泉資源、風光明媚な自然景観を有していることから古くは近代日本の礎を築いた政治家や多くの文学者・小説家に愛され、別荘地から温泉リゾートの代表として栄えてきました。しかし、国内外の観光地競争の激化、旅行者のニーズの変化などにより、熱海を訪れる宿泊観光客は昭和 40 年代～50 年代をピークに減少傾向にあります。

「国際観光温泉文化都市」を標榜する熱海市にとって、観光交流の推進は、つねに魅力的な都市であり続けること、つまり「街全体の総合力」が問われるものといえます。熱海の持つ可能性や地域資源、特性を最大限に活かすとともに、まちづくりや魅力づくりを来訪者の視点からもう一度とらえ直し、観光業に従事する方だけでなく、市民や住民そして行政からなる街全体の総合力を発揮して、観光交流を推進し集客力を高めることが求められます。

「熱海市観光基本計画」は、熱海にかかわるすべての方が一体となって魅力的な都市にしていける共通目標・指針として策定しました。



2 熱海の目指すべき将来像

長期滞在型の世界の保養地

～ 心と体を回復させる 現代の湯治場「熱海」～

熱海観光の原点である「温泉」にもう一度光をあてながら、時代と社会のニーズの変化に合わせ、長期滞在が楽しめ、何度来ても新しい発見と癒しを体験できる、市民そして観光客にとって満足度の高い心と体を回復させる「現代の湯治場」という世界に開かれた保養地づくりを目指す。

- ◆ 自由時間の増加やニューツーリズムの浸透を背景に、「1泊2日の観光地」から「長期滞在型の観光地」への移行
- ◆ 日本人の人口減少と外国人旅行者の増加、空港などの交通インフラの整備を背景に、「世界に開かれた観光地」の整備
- ◆ 現代の旅行者ニーズとなる心と体の癒しを提供できる「やすらぎのある保養地」づくりを推進

<実現のための4つの柱>

I 温泉中心主義 - 湯治場「熱海」の復権 -

熱海は大正期の熱海線乗り入れを契機に、それまでの湯治場から大衆温泉観光地へ大きく変貌を遂げたが、同時にこの頃から熱海の主役であるべき「温泉」が脇役に回ってしまった。熱海の湯治場としての歴史をさかのぼり、温泉情緒あふれる景観や温泉文化を再生させるとともに、時代のニーズに合わせた魅力を付加し、現代の湯治場を提案していく。

II もう一度行きたくなる街 - 満足度アップの仕組みづくり -

国内外からの観光客が欲しいときにいつでも熱海の情報を得られる環境、行きたいときに容易にアクセスできる環境、そして滞在して自分にあった楽しみ方を満喫できる環境づくりを進め、観光客が連泊して熱海に滞在し、また一度来た観光客が「また来たい」と思っていたかための、満足度アップを目指した取り組みを進める。

III 歩いて楽しい温泉保養地 - 経済効果の各業界への拡大 -

市内の観光施設、保養施設、商店街、飲食店などをつなぎ、回遊ルートを整備する。このことにより観光客のもたらす経済効果をホテル・旅館業以外の業界へも拡大させていく。また、同時に市民にとっても恩恵のある施設整備を進める。

IV 全員参加のまちおこし - 総合的な観光事業の実施 -

市役所、観光協会、旅館組合など、現在観光施策を実施している機関の協力・連携を強化し、熱海の発信するメッセージの統一と予算の効率的・効果的な活用を目指す。また、まち全体で観光客を迎え入れる文化をつくるため、市民に対する啓発活動に力を入れていく。

基本計画 I 温泉中心主義 - 湯治場「熱海」の復権 -

1 温泉資源の見直し・活用

(1) 温泉文化の再生

熱海温泉の歴史・文化を再検証するとともに、温泉があることにより生み出された「芸妓」、「食」、「文豪・文学」などを体系化し、「熱海文化」を確立します。

(2) 温泉の科学的活用

「熱海に来たら元気になる」というような、温泉、食事、運動、医療をセットにした新たな湯治スタイルの提案・企画を支援していくとともに、新たな温泉表示システムについて検討していきます。

(3) 温泉を核にしたまちづくり

温泉情緒感じられる街づくりのために湯けむりによる演出や、外湯施設の整備を行うとともに、湯めぐり手形の導入、街路・景観・史跡・観光施設などコンセプトを統一した街並み整備を推進していきます。



家康の湯

基本計画 II もう一度行きたくなる街 - 満足度アップの仕組みづくり -

1 連泊の推進

(1) 長期滞在プログラムの開発

観光客の長期滞在を促すため、観光客のニーズにあったハンドメイドのプログラム提案を行う体制づくり、観光案内の充実と機能の強化、「花」、「夜の賑わい」などを切り口に新しい魅力づくりを推進します。

2 満足度向上施策の推進

(1) 顧客満足度の向上

観光客の満足度を高めるためのホスピタリティあふれる対応を推進します。そのために街全体での観光地教育の推進、宿泊施設・観光施設の魅力向上、日常の延長となる機能の充実をはかります。

(2) CS 調査・マーケティングの充実

観光客の人数、動態、観光消費額など基礎的なデータを把握する調査のほか、観光客の満足度調査・マーケティング調査など、各種観光施策を構築するために必要な調査を行います。

3 食による地域ブランドづくり

(1) 食を活かした魅力づくり

「食」を熱海観光の大きな要素の一つに位置づけ、熱海らしい食の提案ができる環境を整備します。伊豆箱根エリアでの地産地消に取り組み「伊豆ごはん」を提案していきます。

4 広域連携の推進

(1) 広域観光の推進

ともに首都圏の奥座敷として発展してきた「熱海」と「箱根」がそれぞれの特徴を活かしつつ連携を進めるとともに、富士箱根伊豆エリアの市町村と協力しながら広域での着地型商品の造成に取り組めます。

(2) 交通アクセスの整備

快適に熱海にアクセスできる環境づくりのため、鉄道・道路の利便性向上のための取り組みを進めるとともに、海路や羽田空港・富士山静岡空港からのアクセスについて検討・要望していきます。

5 観光プロモーションの推進

(1) 熱海温泉の新たなブランドイメージづくり

熱海のメインビジュアルの選定や、マスコットキャラクターなどの積極的な利用により、観光客の求める非日常の世界を演出するための統一テーマによるまちづくりのブランド戦略を進めます。

(2) 効果的な PR の展開

観光客増加に向けてのプロモーション活動を強化するとともに、居住地・年齢・性別・趣味等のターゲットセグメントを明確にした旅行商品の企画・開発、提供につとめます。

6 観光イベントの充実

(1) 魅力あるイベントの展開

観光イベントの見直しを進め、熱海らしいオリジナリティあふれるイベントを開催するとともに、グリーンツーリズムやブルーツーリズムなどのニューツーリズムの推進をはかります。

(2) 新たな観光資源の創出

花による街づくり、夜の賑わいの創出、エンターテインメント施設の誘致等により、新しい魅力づくりを進めます。



あたま桜



海の幸



花火大会

熱海市観光基本計画 平成19年度策定（抜粋）-2

7 コンベンションシティ構想の推進

(1) コンベンションシティ構想の推進

国内外から滞在型の集客が期待できるコンベンションの誘致を推進します。

8 インバウンドの推進

(1) 外国人観光客誘致の推進

デジタルキャンペーン重点市場で、今後も成長が期待される東アジアをターゲットとした誘客事業を推進します。また、サンレモ市、カスカイス市、珠海市の姉妹（友好）都市との人的・文化的交流を行います。

(2) 外国人観光客受入体制の整備

観光案内・HP・サインなどの多言語表記等により外国人観光客がひとり歩きできる環境を整備するとともに、観光関係従事者に対する研修や基本的なおもてなしマニュアルの作成等により受入体制を整備します。



東アジア国際旅行展



親水公園



スノーマリーナ



熱海芸妓



伊豆山神社



湯へ遊〜バス

基本計画Ⅲ 歩いて楽しい温泉保養地ー経済効果の各業界への拡大ー

1 景観の整備

(1) 景観のゾーニング

まちづくりのランドデザインと連携しながらまちづくりビジョンを策定し、建築物のデザイン誘導や、歩行空間・オープンスペースの確保等と調和のとれた美しい景観の保全・創造を総合的に推進します。

(2) 景観スポットづくり

坂のある地形を活用した趣のある坂道の再発見や路地の石畳化、休憩施設の整備などによりまち歩きを促進するとともに、街並み、海、島々が見える風景（視点場）の整備を推進します。

2 歩いて楽しいルートの設定

(1) 地域資源の発見と魅力アップ

歩いて楽しいまちづくりを推進するために、各地域にある「歴史」、「文化」、「風俗」、「景観」などの地域資源・観光資源を市民と一緒に掘り起こし・再発見するとともに、その魅力アップを図ります。

(2) 商店街等街かどの魅力づくり

熱海駅前や、中心市街地における個性的な商店街の整備と、その周辺の「街かど」を舞台とするエンターテインメントや各種イベントによる賑わいの創出の支援など、街かどの賑わいづくりを推進します。

(3) 歴史・文化を活かしたルートづくり

歴史的・文化的に価値のある有形、無形の資源を保護するとともに、これまで観光資源として認識されていない資源の潜在価値を発掘し、新たな歴史と文化の観光メニューを開発・PRします。

(4) スポーツによるルートづくり

小山臨海公園の総合運動公園化、市民グラウンドや姫の沢公園スポーツ広場の拡張・充実を図るとともに、マリンスポーツ・スカイスポーツ、ビーチスポーツやニュースポーツを振興します。

(5) 地区別の魅力づくり

泉、伊豆山、熱海、多賀、網代、初島の各地区の自然や歴史・文化を活かした魅力づくりを推進します。

3 歩いて楽しいルートの整備

(1) 歩道、街路樹等の整備

安全で快適な歩行空間の確保、都市景観の向上のため、歩道の幅や段差の改善など歩道整備、外国人がひとり歩きできるレベルのわかりやすい案内サインの配置等により、人に優しい歩行空間を整備します。

(2) 回遊拠点の整備

公園や魅力アップにつとめるとともに、海岸部は多様な海洋性レジャーに対応した開発を進めます。また、熱海港を富士箱根伊豆エリアの海の玄関口として大型クルーズ船の誘致や周辺整備を進めます。

(3) 環境に配慮した持続可能な観光地づくり

身近な道路や公園の日常的な管理・美化活動等へ市民や企業等の参画を得て、きれいな街づくりを進めます。また、バイオマスやゼロ・エミッションに取組み環境に配慮した観光地づくりを推進します。

(4) 観光地の安全対策

観光客に対応した地震や津波発生時の避難体制の整備や宿泊施設・観光施設の防火体制の強化、犯罪等が起こらない治安の良い観光地づくりを、市民・関係団体等と協力しながら進めていきます。

4 市内交通の整備

(1) 市内回遊性の促進

既存のラウンドバスの利便性向上とともに、LRT やパーク&ライド方式・デマンド交通システムの検討などにより快適で安全に周遊でき、交通渋滞緩和にもつながるエリア内交通システムについて検討していきます。

基本計画Ⅳ 全員参加のまちおこしー総合的な観光事業の実施ー

1 推進体制の整備

(1) 観光組織の連携強化

観光関連団体の連携、統合により、マーケティング・PR・着地型商品造成・観光教育など熱海の観光を総合的にプロデュースする新たなコンソーシアム、観光組織について積極的に検討する。

(2) 観光産業の育成高度化

観光客のニーズに柔軟に対応できる足腰の強い観光地づくりを進めるため、宿泊施設・土産物店や飲食店などの観光関連施設に対する補助制度や融資制度等の支援制度について、検討・充実する。

2 市民全員が観光ガイド

(1) 温かく迎える仕組みづくり

ホスピタリティ向上を目指した取り組みを進めるとともに、観光客の要望やクレームについて市民・企業・行政が、協働で討議できる仕組みやルール構築に取り組みます。

(2) 観光案内の充実とボランティアとの協働

周辺のサービスエリア・道の駅や首都圏主要駅などの観光情報を提供するための方策を進めるとともに、より多くの市民が観光客との交流を図れるよう「市民総観光ガイド化」を目指した取り組みを進めます。

3 地域・観光教育の推進

(1) 観光地教育の推進

熱海の歴史や文化等に関する知識を高め、より観光客に対するホスピタリティを高めるため、小中学校での観光ホスピタリティ研修や市民を対象とした公開講座の開催、郷土検定制度の導入を検討します。



観光資源棚卸ワークショップ



起雲閣ボランティアガイド

6 重点プロジェクト

「長期滞在型の世界の保養地」を目指して施策を展開します。そのうち、重点プロジェクトとしてさまざまな施策を組み合わせることで事業を推進します。

◆ 郷土湯再発見「噺演館再生・商店街まち並み整備」プロジェクト

熱海発展の中心にあった「温泉」に光をあてることにより、「郷土（熱海）」を再発見する。児童・生徒や市民に温泉をはじめとした熱海観光の基礎知識を普及させるとともに、温泉があることにより生み出された「芸妓」、「食」、「文学」などの歴史・文化を体系化し「熱海文化」を確立する。また、温泉場としての魅力を高めるため、湯けむりによる演出、足湯・手湯の整備、共同湯やホテル・旅館の日帰り温泉利用による「湯めぐり手形」の導入など、気軽に温泉にふれることのできる環境整備を進めるとともに、明治初期に設置された日本初の温泉療養施設であった「噺演館」を再生し、温泉と医療・健康との連携、温泉の種類や効能などの科学的検証を進め、現代版「噺演館」を街のシンボルとして創出する。さらに、周辺商店街などと協力しながら、大湯間歌泉・湯前神社から七湯周辺を「温泉情緒あふれる街」として街並みの整備を進めていく。

◆ 熱海「開港」[みなと観光夢] プロジェクト

熱海にある都市景観、温泉、周辺観光地へのアクセスの良さなどを活かし、クルーズ船の誘致や首都圏からの新規航路の開拓などを進めるとともに、サンビーチ～親水公園～熱海港のウォーターフロントの活性化を図り、富士箱根伊豆エリアの新しい海の玄関口としての整備を推進する。また、鉄道や道路による熱海へのアクセス向上、熱海・箱根エリアの周遊性の向上、インバウンドの推進と受入体制を整備するとともに、情報発信力を強化し、広く国内外に熱海を「開港」する取り組みを進める。



にっぽん丸熱海初寄港

◆ 熱海ロマン [まちなか1万歩] プロジェクト

歩いて楽しい街づくりを推進し、観光客の熱海での滞在時間を多くするための取り組みを推進する。そのために、熱海にある観光資源・地域資源を掘り起こし、まちなか全体が博物館であり、毎日が展覧会となるイベント展開と、観光ボランティアの養成・市民のホスピタリティの向上を図る。また、安心安全で魅力ある歩行空間の創出、観光案内の充実、エリア内交通システムの整備などの環境整備を進める。

併せて、上記重点プロジェクトを推進する組織づくりとして新たなコンソーシアムの検討を進めるとともに、多くの観光客を迎える市民・住民に対する観光地教育の充実を図り、観光客の満足度の高い観光地づくりの基盤整備を進める。

